

目次

1. 工作機械統計・産業動向

- ◆米国工作機械受注統計(7月) 1
- ◆米国工作機械受注統計(地域別) 2
- ◆台湾工作機械輸出入統計(2026年6月) 2
- ◆韓国工作機械主要統計(2026年6月) 3
- ◆ドイツ工作機械主要統計(2026年上半期) 6

2. 主要国・地域経済動向

- ◆米国: PMI 54.6%(8月) 10
- ◆中国製造業 PMI 49.8%(8月) 11
- ◆中国「十五五」始動、
行信部が新型工業化の重点政策発表 11
- ◆2026年ドイツ工作機械産業情報 13
- ◆ドイツ工作機械業界の受注高、
第2四半期 12%増加 17
- ◆欧州通商政策動向 19
- ◆海外業界動向:
中国 21
マレーシア、半導体・航空宇宙などで60億ドルの
投資を獲得 22
- ◆米国通商政策動向:
輸入半導体に対する
セクション232関税の適用拡大 24
特定のカナダ産品に対する
第338条に基づく関税 25
米国・カナダ間の貿易紛争 26

3. 工作機械関連企業動向

- ◆DNソリューションズ、インドでの成長を目標に
60億ルピーを投じるベンガルール工場を開設 27
- ◆Hurco、
会計2026年度第3四半期決算で黒字を計上 29

4. 展示会情報

- ◆EMO Milano 2027プレゼンテーション 32

5. その他

- ◆ユーザー産業情報 33

6. 日工会外需状況(8月) 46

お知らせ

- IMTEX2027プレスカンファレンス&
インド進出セミナー 48

1. 工作機械統計・産業動向

◆米国工作機械受注統計(7月)

AMT(米国製造技術工業協会)が発表する米国製造技術受注レポート(USMTO)によると、2026年7月の金属加工機械の新規受注額は合計6億580万ドルとなった。2026年6月比で8.0%の減少、2025年7月比では55.2%の増加となった。受注額が5億ドルを超えた月が5ヶ月連続したのは、USMTOが1998年にデータ収集を開始して以来、今回で2度目のことである。2026年の最初の7ヶ月間における製造技術の受注総額は40億3,000万ドルに達し、2025年7月までの受注額と比較して37.1%の増加となった。

受注額が3分の1以上増加した一方で、2026年7月までの受注台数は、2025年の同期間と比べて13.0%の増加にとどまった。

金属切削機械市場では過去2年間、緩やかなインフレ圧力が生じているが、受注額と受注台数の伸び率にこれほどの差が生じた主な要因は、さらなる自動化への需要が継続的に拡大していることにある。

2026年6月から7月にかけて受注が減少したのは、いくつかの顧客業界で投資が抑制されたためであり、特にエンジン、タービン、その他の動力伝達装置の製造業者による減少幅が大きくなった。電力網(グリッド)への負荷が増大する中、過去2年間、この分野からの製造技術受注は長期平均を35%以上上回る水準で推移していた。発電設備メーカーからの受注は減少したものの、家庭や企業がその電力を利用可能にするための構成部品を製造するメーカーは、設備投資を継続した。

(USMTOレポート 2026年9月13日付)

米国工作機械受注統計

(金額単位：千ドル)

年 月	切削型受注		成型型受注	
	台 数	金 額	台 数	金 額
2025年 7月	1,576	387,377	8	D
8月	1,842	533,174	18	4,512
9月	1,811	486,861	28	12,428
10月	2,009	550,410	18	4,961
11月	1,642	432,759	20	3,729
12月	2,575	811,792	20	7,938
2026年 1月	1,459	431,555	18	11,280
2月	1,686	479,450	21	5,833
3月	2,129	658,601	23	8,873
4月	1,850	582,792	20	9,134
5月	1,883	566,912	17	8,810
6月	2,036	649,286	24	9,034
7月	1,957	593,235	44	12,558
平均	1,881	551,093	21	8,258

◆米国工作機械受注統計(地域別)

(金額単位：百万ドル)

地域別	2026年7月 (P)	2026年6月 (R)	前月比 (%)	前年同月	前年同月比 (%)	2026年累計(P)	2025年累計 (R)	前年同期比 (%)
全米	605.8	658.3	-8.0	390.2	55.2	4,027.4	2,937.4	37.1
北東部	81.3	111.7	-27.2	58.6	38.6	636.1	442.0	43.9
南東部	100.3	110.2	-9.0	52.4	91.4	562.2	382.8	46.9
北中東部	121.6	121.3	0.2	99.4	22.3	757.8	689.4	9.9
北中西部	106.5	99.1	7.4	78.5	35.7	659.5	478.5	37.8
南中部	67.9	76.2	-10.9	36.5	86.1	417.3	314.1	32.9
西部	128.2	139.8	-8.3	110.3	16.2	994.4	630.6	57.7

P：暫定値 R：改定値
データは成型形含む

◆台湾工作機械輸出入統計(2026年6月)

台湾工作機械輸出入統計(2026年1～6月)

(単位：千USドル)

機 種 名	輸 出			輸 入		
	2025.1-6	2026.1-6	前年比(%)	2025.1-6	2026.1-6	前年比(%)
放電加工機・レーザ加工機	80,020	105,239	31.5	127,342	143,586	12.8
マシニングセンタ	308,221	272,694	-11.5	37,770	48,150	27.5
旋盤	215,527	204,375	-5.2	25,468	24,639	-3.3
ボール盤・フライス盤・中ぐり盤	72,864	67,916	-6.8	5,854	5,794	-1.0
研削盤	103,827	108,140	4.2	16,856	28,591	69.6
歯切り盤・歯車機械	46,804	47,834	2.2	16,327	9,116	-44.2
切 削 型 合 計	827,263	806,198	-2.5	229,617	259,876	13.2

出所：TAMI

台湾工作機械国別輸出入統計(2026年1-6月)

(金額単位：千USドル)

輸 出						輸 入					
順位	国 別	2025.1-6	2026.1-6	割合(%)	前年比(%)	順位	国 別	2025.1-6	2026.1-6	割合(%)	前年比(%)
1	中 国	271,553	264,870	27.1	-2.5	1	日 本	130,612	137,064	43.8	4.9
2	米 国	183,354	156,669	16.0	-14.6	2	中 国	54,887	81,940	26.2	49.3
3	イ ン ド	68,972	75,526	7.7	9.5	3	ド イ ツ	27,729	20,754	6.6	-25.2
4	ベ ト ナ ム	45,362	67,930	6.9	49.8	4	韓 国	11,359	18,975	6.1	67.0
5	タ イ	47,509	51,500	5.3	8.4	5	ス イ ス	16,626	14,347	4.6	-13.7
6	ト ル コ	76,577	41,307	4.2	-46.1	6	シンガポール	2,578	10,199	3.3	295.6
7	マレーシア	16,838	26,781	2.7	59.1	7	タ イ	6,417	8,955	2.9	39.6
8	ド イ ツ	17,007	25,135	2.6	47.8	8	イスラエル	5,048	3,671	1.2	-27.3
9	オ ラ ン ダ	21,688	20,608	2.1	-5.0	9	米 国	5,393	3,478	1.1	-35.5
10	日 本	26,902	20,176	2.1	-25.0	10	フ ラ ン ス	205	3,303	1.1	1,511.2
11	イ タ リ ア	17,200	17,063	1.7	-0.8		そ の 他	15,552	9,970	3.2	-35.9
12	韓 国	14,895	16,612	1.7	11.5						
13	メ キ シ コ	13,650	14,796	1.5	8.4						
14	英 国	17,440	14,161	1.4	-18.8						
15	オーストラリア	11,472	12,762	1.3	11.2						
16	インドネシア	13,472	12,698	1.3	-5.7						
17	ベルギー	10,498	12,455	1.3	18.6						
18	ブラジル	18,180	11,363	1.2	-37.5						
19	カ ナ ダ	9,831	10,375	1.1	5.5						
20	フ ラ ン ス	8,305	8,938	0.9	7.6						
21	香 港	3,263	8,422	0.9	158.1						
22	ス ペ イ ン	6,937	8,260	0.8	19.1						
23	イスラエル	2,863	6,915	0.7	141.5						
24	ポーランド	9,976	6,631	0.7	-33.5						
25	南アフリカ	6,015	6,525	0.7	8.5						
26	シンガポール	5,578	4,662	0.5	-16.4						
27	ポルトガル	3,329	3,646	0.4	9.5						
28	ギリシャ	2,336	3,425	0.4	46.6						
29	フィリピン	2,849	3,342	0.3	17.3						
30	アラブ首長国	4,076	2,801	0.3	-31.3						
	そ の 他	51,761	41,959	4.3	-18.9						
	合 計	1,009,688	978,313	100.0	-3.1		合 計	276,406	312,656	100.0	13.1

出所：海関進出口統計月報

◆韓国工作機械主要統計(2026年6月)

○業種別受注(2026.6) 韓国工作機械受注(2026年6月) (単位：百万ウォン)

需要業種	2026.5	2026.6	前月比(%)	2025.1-6	2026.1-6	前年同期比(%)
鉄鋼・非鉄金属	4,820	3,724	-22.7	21,046	13,480	-35.9
金属製品	470	815	73.4	1,352	2,561	89.4
一般機械	26,972	47,037	74.4	164,901	175,021	6.1
電気機械	14,922	23,260	55.9	54,208	81,302	50.0
自動車	27,457	28,855	5.1	229,569	196,645	-14.3
造船・輸送用機械	4,674	8,839	89.1	33,340	33,990	1.9
精密機械	2,615	4,725	80.7	41,415	21,498	-48.1
その他製造業	7,403	9,752	31.7	31,686	39,481	24.6
官公需・学校	0	353	-	2,692	747	-72.3
商社・代理店	25,440	10,235	-59.8	37,598	81,990	118.1
その他	0	0	-	0	0	-
内 需 合 計	114,773	137,595	19.9	617,807	646,715	4.7
外 需	176,767	246,754	39.6	1,001,981	1,221,590	21.9
総 合 計	291,540	384,349	31.8	1,619,788	1,868,305	15.3

出所：韓国工作機械産業協会

○機種別受注(2026.6)

(単位：百万ウォン)

機 種	2026.5	2026.6	前月比(%)	2025.1-6	2026.1-6	前年同期比(%)
N C 小 合 計	285,973	378,091	32.2	1,578,310	1,839,214	16.5
NC旋盤	137,610	194,085	41.0	768,643	912,726	18.7
マシニングセンタ	116,428	139,671	20.0	574,546	694,412	20.9
NCフライス盤	523	4,250	712.6	2,424	5,013	106.8
NC専用機	8,628	17,788	106.2	135,560	121,202	-10.6
NC中ぐり盤	13,759	13,822	0.5	43,049	62,862	46.0
NCその他の工作機械	6,583	6,437	-2.2	37,126	32,234	-13.2
非 N C 小 合 計	2,692	3,805	41.3	29,487	18,473	-37.4
旋盤	824	800	-2.9	11,324	7,228	-36.2
フライス盤	947	1,762	86.1	9,907	6,291	-36.5
ボール盤	0	0	-	243	38	-84.4
研削盤	734	1,243	69.3	8,013	4,400	-45.1
専用機	112	0	-	0	441	-
その他の工作機械	0	0	-	0	0	-
金 属 切 削 型	288,665	381,896	32.3	1,607,797	1,857,687	15.5
金 属 成 形 型	2,875	2,453	-14.7	11,991	10,618	-11.5
総 合 計	291,540	384,349	31.8	1,619,788	1,868,305	15.3

出所：韓国工作機械産業協会

韓国工作機械生産&出荷統計(2026年6月)

○生産(2026年6月)

(単位：百万ウォン)

機 種 別	2026.5	2026.6	前月比(%)	2025.1-6	2026.1-6	前年同期比(%)
N C 小 合 計	207,655	243,846	17.4	1,051,920	1,118,085	6.3
NC旋盤	92,994	114,562	23.2	501,045	504,346	0.7
マシニングセンタ	79,935	94,041	17.6	360,673	404,092	12.0
NCフライス盤	387	240	-38.0	953	924	-3.0
NC専用機	21,889	20,415	-6.7	125,365	133,592	6.6
NC中ぐり盤	5,006	4,176	-16.6	20,060	21,306	6.2
NCその他	5,902	8,836	49.7	29,436	44,570	51.4
非 N C 小 合 計	1,319	4,015	204.4	17,301	10,504	-39.3
旋盤	0	97	-	1,559	97	-93.8
フライス盤	612	2,162	253.3	6,100	5,833	-4.4
ボール盤	0	0	-	1,896	0	-
研削盤	632	806	27.5	4,384	3,011	-31.3
専用機	0	950	-	3,362	1,488	-55.7
その他	0	0	-	0	0	-
金 属 切 削 型 合 計	208,974	247,861	18.6	1,069,221	1,128,589	5.6
金 属 成 形 型 合 計	14,286	14,923	4.5	94,629	91,196	-3.6
総 合 計	223,260	262,784	17.7	1,163,850	1,219,785	4.8

出所：韓国工作機械産業協会

○出荷(2026.6)

(単位：百万ウォン)

機 種 別	2026.5	2026.6	前月比(%)	2025.1-6	2026.1-6	前年同期比(%)
N C 小 合 計	250,419	327,104	30.6	1,385,717	1,501,396	8.3
NC旋盤	124,778	165,196	32.4	689,115	743,476	7.9
マシニングセンタ	87,443	124,541	42.4	479,718	551,581	15.0
NCフライス盤	387	240	-38.0	953	950	-0.3
NC専用機	21,889	20,415	-6.7	144,529	133,592	-7.6
NC中ぐり盤	9,234	7,242	-21.6	27,680	30,193	9.1
NCその他	5,146	7,894	53.4	29,334	32,349	10.3
非 N C 小 合 計	2,825	6,137	117.2	28,435	17,765	-37.5
旋盤	1,439	2,158	50.0	11,825	6,769	-42.8
フライス盤	644	2,223	245.2	6,357	6,051	-4.8
ボール盤	0	0	-	2,047	0	-
研削盤	667	806	20.8	4,844	3,382	-30.2
専用機	0	950	-	3,362	1,488	-55.7
その他	0	0	-	0	0	-
金 属 切 削 型 合 計	253,244	333,241	31.6	1,414,152	1,519,161	7.4
金 属 成 形 型 合 計	915	1,340	46.4	8,599	5,908	-31.3
総 合 計	254,159	334,581	31.6	1,422,751	1,525,069	7.2

出所：韓国工作機械産業協会

○機種別輸出(2026.6) 韓国工作機械輸出統計(2026年6月) (単位：千USドル)

機種別	2026.5	2026.6	前月比(%)	2025.1-6	2026.1-6	前年同期比(%)
N C 小 合 計	121,375	154,516	27.3	822,945	834,424	1.4
NC旋盤	56,951	82,739	45.3	413,660	395,007	-4.5
マシニングセンタ	39,366	40,330	2.4	237,412	253,380	6.7
NCフライス盤	518	1,667	221.9	9,325	6,019	-35.5
NC専用機	0	64	-	11,799	64	-99.5
NC中ぐり盤	2,993	3,691	23.3	17,298	15,406	-10.9
レーザ加工機	16,276	19,204	18.0	100,534	124,154	23.5
NCその他	2,310	2,861	23.8	18,195	18,417	1.2
非 N C 小 合 計	6,615	6,221	-6.0	50,606	39,484	-22.0
旋盤	507	334	-34.2	4,023	3,010	-25.2
フライス盤	635	482	-24.1	4,929	4,272	-13.3
ボール盤	354	31	-91.4	3,619	1,421	-60.7
研削盤	582	676	16.2	5,454	6,050	10.9
専用機	0	2	941.4	342	114	-66.6
その他	3,757	3,354	-10.7	19,645	17,919	-8.8
金 属 切 削 型 合 計	127,990	160,737	25.6	873,551	873,908	0.0
金 属 成 形 型 合 計	50,510	22,785	-54.9	250,552	214,379	-14.4
総 合 計	178,500	183,521	2.8	1,124,103	1,088,287	-3.2

出所：韓国通関局

○仕向け国別輸出(2026.1-6) (単位：千USドル)

機種別	アジア	中国	インド	アメリカ	欧州	ドイツ	トルコ
NC小合計	323,215	105,401	89,663	201,619	246,850	96,204	73,465
NC旋盤	77,147	28,425	27,438	120,227	169,265	70,554	52,835
マシニングセンタ	102,064	30,600	49,083	57,277	69,496	23,103	19,427
NCフライス盤	3,654	305	1,550	1,030	614	52	0
NC専用機	64	0	64	0	0	0	0
NC中ぐり盤	8,715	5,948	2,488	2,519	0	0	0
レーザ加工機	107,967	28,717	4,502	9,950	3,227	106	104
NCその他	6,869	989	1,580	8,501	2,245	1,610	533
非NC小合計	28,018	8,777	8,747	6,854	2,542	1,067	411
旋盤	2,307	172	1,036	336	187	69	118
フライス盤	2,986	584	888	897	298	166	11
ボール盤	1,296	156	91	91	27	0	0
研削盤	5,058	1,257	2,392	574	129	82	0
専用機	3	0	0	0	111	111	0
その他	11,469	5,961	2,896	4,092	1,091	231	281
金 属 切 削 型 合 計	351,233	114,178	98,410	208,473	249,392	97,271	73,876
金 属 成 形 型 合 計	122,871	6,959	81,229	58,830	19,806	5,369	3,903
総 合 計	474,104	121,137	179,639	267,302	269,198	102,639	77,779

出所：韓国通関局

○機種別輸入(2026.6) 韓国工作機械輸入統計(2026年6月) (単位：千USドル)

機 種 別	2026.5	2026.6	前月比(%)	2025.1-6	2026.1-6	前年同期比(%)
N C 小 合 計	40,709	51,821	27.3	313,329	294,997	-5.9
NC旋盤	2,520	5,659	124.6	29,490	23,572	-20.1
マシニングセンタ	15,296	11,311	-26.1	71,447	74,041	3.6
NCフライス盤	298	184	-38.4	7,959	24,966	213.7
NC専用機	8	0	-	2,888	2,333	-19.2
NC中ぐり盤	187	667	256.9	6,284	5,109	-18.7
レーザ加工機	15,781	19,068	20.8	113,002	100,667	-10.9
NCその他	555	2,244	303.9	3,675	8,284	125.4
非 N C 小 合 計	6,692	8,141	21.7	44,786	37,349	-16.6
旋盤	552	598	8.3	2,438	2,821	15.7
フライス盤	222	69	-68.8	1,626	1,908	17.4
ボール盤	337	254	-24.8	1,832	1,619	-11.6
研削盤	1,787	1,243	-30.4	11,284	5,458	-51.6
専用機	8	13	69.8	254	21	-91.7
その他	1,098	3,237	194.9	14,384	13,830	-3.9
金 属 切 削 型 合 計	47,401	59,962	26.5	358,115	332,346	-7.2
金 属 成 形 型 合 計	7,405	9,375	26.6	76,807	61,333	-20.1
総 合 計	54,807	69,337	26.5	434,922	393,679	-9.5

出所：韓国通関局

○輸入国別(2026.1-6)

(単位：千USドル)

機種別	アジア	日本	台湾	米国	欧州	ドイツ	イタリア
N C 小 合 計	215,948	92,160	11,167	3,098	72,396	30,317	2,775
NC旋盤	22,135	9,301	906	46	1,390	0	0
マシニングセンタ	60,675	46,365	7,258	806	12,557	10,373	498
NCフライス盤	2,250	459	333	10	22,707	0	0
NC専用機	925	707	0	8	1,400	1,400	0
NC中ぐり盤	2,989	1,980	0	0	2,119	7	2,112
レーザ加工機	89,467	21,220	146	1,372	9,708	6,955	148
NCその他	3,397	1,570	0	743	4,139	2,542	17
非 N C 小 合 計	24,992	8,549	1,999	1,807	10,504	5,305	262
旋盤	2,711	1,062	265	2	108	44	0
フライス盤	456	224	0	1,077	375	275	13
ボール盤	1,491	349	105	6	81	45	0
研削盤	4,977	2,569	671	62	415	21	1
専用機	11	0	0	7	3	0	3
その他	8,342	2,455	121	57	5,429	3,689	36
金 属 切 削 型	240,940	100,709	13,166	4,905	82,900	35,622	3,037
金 属 成 形 型	38,032	13,493	1,567	1,041	22,068	3,386	9,405
総 合 計	278,972	114,202	14,734	5,946	104,968	39,007	12,442

出所：韓国通関局

◆ドイツ工作機械主要統計(2026年上半期)

	金額(百万ユーロ)							前年比(%)		
	2021	2022	2023	2024	2025	2025 1-2Q	2026 1-2Q	2024	2025	2026 1-2Q
生産合計	12,805	14,116	15,384	14,795	13,759	6,344	5,885	-4	-7	-7
機械合計	8,918	9,745	10,645	10,342	9,508	4,287	3,895	-3	-8	-9
切削型	6,576	7,432	8,330	7,941	7,144	3,256	3,065	-5	-10	-6
成型型	2,341	2,313	2,315	2,401	2,364	1,032	830	+4	-2	-20
部品・付属品	2,610	2,986	3,192	2,909	2,738	1,355	1,335	-9	-6	-2
設置・修理・メンテナンス	1,277	1,386	1,547	1,545	1,513	701	655	-0	-2	-7
受注額	13,580	15,800	14,130	11,380	11,045	5,444	6,185	-19	-3	+14
内需	3,940	4,640	3,970	3,620	3,030	1,554	1,800	-9	-16	+16
外需	9,640	11,160	10,160	7,760	8,015	3,890	4,385	-24	+3	+13
生産額(サービス除く)	11,528	12,730	13,837	13,250	12,246	5,643	5,230	-4	-8	-7
輸出	8,013	8,770	9,757	9,412	8,713	4,228	3,953	-4	-7	-6
国内販売	3,515	3,960	4,079	3,838	3,533	1,415	1,277	-6	-8	-10
輸入	2,959	3,661	3,741	3,160	3,035	1,444	1,418	-16	-4	-2
国内消費	6,474	7,621	7,821	6,998	6,568	2,859	2,695	-11	-6	-6
輸出比率(%)	69.5	68.9	70.5	71.0	71.2	74.9	75.6			
輸入比率(%)	45.7	48.0	47.8	45.2	46.2	50.5	52.6			
従業員数(年平均)	64,871	64,264	65,197	65,523	64,513	65,164	60,677	+0.5	-1.5	-6.9
(3月)						63,912	60,000			-6.1
企業数	298	286	277	276	276	277	265	-0.2	+0.1	-4.5
稼働率(年平均)	80.8	87.7	89.6	81.7	75.6	75.1	74.3	-7.9	-6.1	-0.8
(4月)						71.8	74.7			+2.9

出所：VDW、VDMA、ドイツ連邦統計局

ドイツ工作機械生産統計(2025年)

	金額(百万ユーロ)					前年比(%)		シェア(%)	
	2021	2022	2023	2024	2025	2024/2023	2025/2024	2024	2025
工作機械総合計	12,805.3	14,116.0	15,383.6	14,795.3	13,758.7	-4	-7	100.0	100.0
金属切削型合計	6,456.4	7,188.9	8,036.7	7,713.3	6,880.0	-4	-11	52.1	50.0
レーザー加工機、放電加工機、超音波加工機	816.2	834.5	968.1	887.6	847.5	-8	-5	6.0	6.2
マシニングセンタ	1,734.2	2,162.2	2,319.5	2,071.4	1,996.4	-11	-4	14.0	14.5
トランスファーマシン	410.0	173.9	180.8	285.0	119.5	58	-58	1.9	0.9
旋盤	967.2	1,096.9	1,245.0	1,141.3	995.7	-8	-13	7.7	7.2
ボール盤、中ぐり盤、中ぐりフライス盤	161.8	171.9	160.4	137.2	142.2	-15	4	0.9	1.0
フライス盤	860.6	946.1	1,085.5	1,041.0	934.9	-4	-10	7.0	6.8
研削盤、ホーニング盤、ラップ盤	820.3	969.5	1,108.3	1,099.1	912.8	-1	-17	7.4	6.6
歯切り盤	440.8	570.3	647.3	741.4	639.7	15	-14	5.0	4.6
金切り盤及び切断機	185.4	204.8	246.8	225.8	185.4	-9	-18	1.5	1.3
その他の工作機械	60.1	58.6	75.0	83.6	105.9	12	27	0.6	0.8
金属成形型合計	2,341.4	2,312.7	2,315.2	2,400.7	2,363.7	4	-2	16.2	17.2
アディティブマニュファクチャリング	120.0	243.0	292.9	227.6	264.2	-22	16	1.5	1.9
工作機械用部品	2,610.5	2,985.6	3,191.8	2908.8	2,738.2	-9	-6	19.7	19.9
工作機械の設置、修理、メインテナンス	1,276.9	1,385.8	1,547.1	1,544.9	1,512.7	0	-2	10.4	11.0

出所：VDW、VDMA、ドイツ連邦統計局

※連邦統計局分類変更の都合により、2026年生産統計発表に遅延が生じております。
データは2025年まで公表中。

ドイツ工作機械国別輸出統計(2026年第1-2四半期)

(金額単位：百万ユーロ)

国	別	2024	2025	2026 1-2Q	% 25/24	% 26/25	% 2025	% 2026
合	計	7,751.0	7,090.3	3,191.0	-9	-6	100.0	100.0
1.	米 国	1,458.5	1,296.1	675.3	-11	6	18.3	21.2
2.	中 国	1,305.9	1,046.9	401.9	-20	-26	14.8	12.6
3.	イ ン ド	274.6	293.5	172.1	7	15	4.1	5.4
4.	フ ラ ン ス	328.5	271.8	152.4	-17	32	3.8	4.8
5.	ポ ー ラ ン ド	267.4	277.4	136.3	4	24	3.9	4.3
6.	イ タ リ ア	329.9	466.6	128.0	42	-36	6.6	4.0
7.	ト ル コ	223.9	220.5	107.5	-2	2	3.1	3.4
8.	ス イ ス	266.2	197.3	104.5	-26	8	2.8	3.3
9.	チ ェ コ	216.2	194.9	103.4	-10	17	2.7	3.2
10.	オーストリア	234.3	196.0	92.2	-16	8	2.8	2.9
11.	メ キ シ コ	246.0	228.0	89.6	-7	-27	3.2	2.8
12.	オ ラ ン ダ	159.4	203.0	75.9	27	-36	2.9	2.4
13.	ス ペ イ ン	198.4	163.1	75.8	-18	-7	2.3	2.4
14.	英 国	191.9	167.3	74.3	-13	10	2.4	2.3
15.	日 本	149.8	128.7	72.6	-14	25	1.8	2.3
16.	ハ ン ガ リ ー	214.2	130.8	66.9	-39	-8	1.8	2.1
17.	スウェーデン	134.5	160.7	55.8	20	-30	2.3	1.7
18.	韓 国	124.6	91.0	46.3	-27	-22	1.3	1.4
19.	ルーマニア	69.3	79.6	38.4	15	6	1.1	1.2
20.	ベルギー	91.6	99.0	33.9	8	7	1.4	1.1
21.	ウクライナ	37.2	57.2	31.4	54	60	0.8	1.0
22.	スロバキア	81.1	104.0	28.0	28	-20	1.5	0.9
23.	カナダ	98.8	123.1	27.2	25	-52	1.7	0.9
24.	ブラジル	97.1	57.9	27.0	-40	-20	0.8	0.8
25.	ノルウェー	25.9	42.5	22.5	64	99	0.6	0.7
26.	台 湾	45.2	27.6	22.3	-39	51	0.4	0.7
27.	サウジアラビア	36.1	46.5	21.3	29	-35	0.7	0.7
28.	スロベニア	48.5	45.7	19.4	-6	-14	0.6	0.6
29.	ポルトガル	52.3	72.1	19.0	38	-31	1.0	0.6
30.	フィンランド	38.0	47.1	19.0	24	-20	0.7	0.6

出所：連邦統計局、VDMA、VDW

ドイツ工作機械国別輸入統計(2026年第1-2四半期)

(金額単位：百万ユーロ)

国 別	2024	2025	2026 1-2Q	% 25/24	% 26/25	% 2025	% 2026
合 計	2,285.9	2,163.2	976.5	-5	-4	100.0	100.0
1. ス イ ス	635.6	553.4	235.6	-13	-8	25.6	24.1
2. 日 本	280.6	227.8	112.5	-19	15	10.5	11.5
3. 韓 国	138.1	160.4	92.6	16	25	7.4	9.5
4. イ タ リ ア	206.3	203.2	82.7	-2	-11	9.4	8.5
5. 中 国	148.0	185.5	75.9	25	-22	8.6	7.8
6. オーストリア	146.1	121.2	57.5	-17	6	5.6	5.9
7. チ ェ コ	105.4	93.2	43.5	-12	11	4.3	4.5
8. 台 湾	81.6	66.8	31.2	-18	2	3.1	3.2
9. ス ペ イ ン	78.5	86.0	26.2	10	-31	4.0	2.7
10. 米 国	52.7	71.2	24.3	35	-42	3.3	2.5
11. フ ラ ン ス	37.7	42.3	22.9	12	11	2.0	2.3
12. ス ロ バ キ ア	39.9	41.4	19.8	4	18	1.9	2.0
13. ポ ー ラ ン ド	38.2	31.1	18.4	-19	23	1.4	1.9
14. 英 国	66.7	49.6	17.9	-26	-32	2.3	1.8
15. ト ル コ	37.1	23.3	14.3	-37	26	1.1	1.5
16. ベ ル ギ ー	18.7	7.5	14.1	-60	228	0.3	1.4
17. オ ラ ン ダ	24.6	29.6	13.2	20	-17	1.4	1.4
18. ブ ル ガ リ ア	24.0	33.5	11.8	39	-24	1.5	1.2
19. タ イ	15.6	21.5	10.4	38	-3	1.0	1.1
20. フィンランド	9.6	5.0	4.9	-48	41	0.2	0.5
21. スウェーデン	11.8	26.8	4.7	127	-46	1.2	0.5
22. シンガポール	12.5	10.7	4.5	-14	-3	0.5	0.5
23. ス ロ ベ ニ ア	8.4	8.8	3.9	6	3	0.4	0.4
24. イ ン ド	6.3	6.2	3.8	-3	12	0.3	0.4
25. ハ ン ガ リ ー	7.0	7.9	3.7	14	30	0.4	0.4
26. デ ン マ ー ク	3.6	6.4	3.3	78	-1	0.3	0.3
27. ノ ル ウ ェ ー	0.9	1.8	3.0	109	117	0.1	0.3
28. オーストラリア	8.4	3.5	2.4	-59	50	0.2	0.2
29. ギ リ シ ャ	1.4	3.0	2.2	112	74	0.1	0.2
30. ルクセンブルグ	0.4	1.2	2.0	232	256	0.1	0.2

出所：連邦統計局、VDMA、VDW

ドイツ工作機械機種別輸出統計(2026年第1-2四半期)

	金額(百万ユーロ)					前年比(%)		シェア(%)	
	2022	2023	2024	2025	2026 1-2Q	2025/2024	2026/2025	2025	2026
工作機械総合計	8,770.4	9,757.2	9,411.9	8,713.5	3,953.1	-7	-7	100.0	100.0
金属切削型合計	5,693.1	6,313.1	5,925.6	5,398.7	2,474.4	-9	-4	62.0	62.6
特殊加工機	1,195.3	1,269.4	1,085.1	1,076.3	467.9	-1	-12	12.4	11.8
マシニングセンタ	1,691.4	1,917.5	1,668.8	1,653.5	735.0	-1	-10	19.0	18.6
トランスファーマシン	102.4	141.9	135.2	109.0	65.9	-19	27	1.3	1.7
旋盤	766.8	781.7	799.3	663.8	336.4	-17	20	7.6	8.5
ボール盤、中ぐり盤、中ぐりフライス盤	172.3	222.3	184.0	212.0	82.4	15	-21	2.4	2.1
フライス盤	311.7	302.6	280.0	264.1	122.6	-6	-3	3.0	3.1
研削盤、ホーニング盤、ラップ盤	759.0	893.7	895.0	686.9	303.5	-23	-3	7.9	7.7
歯切り盤	486.8	547.7	603.1	535.5	260.8	-11	0	6.1	6.6
金切り盤及び切断機	147.5	168.4	179.2	133.3	62.1	-26	-9	1.5	1.6
その他の工作機械	59.8	67.9	95.8	64.3	37.9	-33	18	0.7	1.0
金属成型型合計	1,288.8	1,511.4	1,558.0	1,418.2	568.2	-9	-20	16.3	14.4
アディティブマニファクチャリング	212.0	192.9	267.4	273.4	148.3	2	23	3.1	3.8
工作機械用部品	1,576.5	1,739.8	1,661.0	1,623.1	762.1	-2	-7	18.6	19.3

出所：VDW、VDMA、ドイツ連邦統計局

ドイツ工作機械輸入統計(2026年第1四半期)

	金額(百万ユーロ)					前年比(%)		シェア(%)	
	2022	2023	2024	2025	2026 1-2Q	2025/2024	2026/2025	2025	2026
工作機械総合計	3,661.2	3,741.5	3,159.8	3,035.4	1,418.3	-4	-2	100.0	100.0
金属切削型合計	2,183.1	2,196.2	1,821.7	1,748.6	779.6	-4	-2	57.6	55.0
特殊加工機	581.2	597.5	439.7	463.5	193.3	5	-12	15.3	13.6
マシニングセンタ	414.3	436.9	338.9	310.8	141.1	-8	-4	10.2	10.0
トランスファーマシン	67.3	42.1	50.1	22.3	7.1	-56	15	0.7	0.5
旋盤	546.6	535.8	433.6	428.3	224.2	-1	23	14.1	15.6
ボール盤、中ぐり盤、中ぐりフライス盤	104.9	78.6	81.1	80.1	32.7	-1	-11	2.6	2.3
フライス盤	74.1	65.1	71.6	63.6	25.0	-11	-18	2.1	1.8
研削盤、ホーニング盤、ラップ盤	290.8	327.1	300.2	298.3	123.6	-1	-4	9.8	8.7
歯切り盤	43.5	51.7	46.6	20.5	6.6	-56	-42	0.7	0.5
金切り盤及び切断機	49.3	51.3	49.8	50.1	19.9	1	-19	1.7	1.4
その他の工作機械	11.1	10.1	10.0	11.1	6.1	12	0	0.4	0.4
金属成型型合計	476.6	509.2	438.3	381.6	176.7	-13	-15	12.6	12.5
アディティブマニュファクチャリング	8.9	16.8	26.0	33.1	20.2	27	37.6	1.1	1.4
工作機械用部品	992.5	1,019.3	873.9	872.2	441.8	0	3	28.7	31.2

出所：VDW、VDMA、ドイツ連邦統計局

2. 主要国・地域経済動向

◆米国：PMI 54.6%(8月)

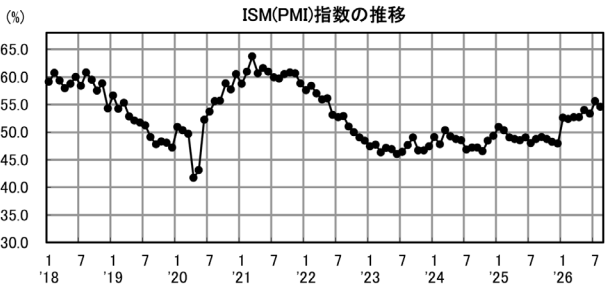
ISM[®] (供給管理協会)の最新の米国製造業PMI[®] (購買担当者景気指数)レポートによると、8月の製造業における経済活動は8ヶ月連続で拡大した。

「8月の製造業PMI[®]は54.6%を記録し、7月の55.6%から1ポイント低下した。経済全体は22ヶ月連続で拡大を続けている(製造業PMI[®]が一定期間47.5%を上回る水準で推移することは、一般的に経済全体の拡大を示唆する)。新規受注指数は、4ヶ月連続の縮小局面を経て8ヶ月連続で拡大し、53.7%を記録したが、これは7月の56.7%から3ポイントの低下となった。8月の生産指数(58.3%)は、7月に記録した58.5%を0.2ポイント下回った。価格指数は7月と同じ71.1%を記録し、拡大(または『上昇』)圏内にとどまった。」

「8月の米国の製造業活動は拡大圏内を維持したが、新規受注、受注残、輸入といった主要な指標においては勢いが鈍化した。PMI[®]を構成する5つのサブ指数のうち、前月より数値が改善したのは『サプライヤーの納期』(0.4ポイント上昇)のみであり、これはサプライチェーンの減速が続いていることを示唆している。

8月に成長を報告した15の製造業種は、順に以下の通り：一次金属、電気機器・家電・部品、その他製造業、繊維製品、家具・関連製品；非金属鉱物製品；紙製品；輸送用機器；金属製品；石油・石炭製品；印刷・関連サービス；コンピュータ・電子製品；プラスチック・ゴム製品；機械；食料品・飲料・たばこ製品。

ISMが発表した8月の主要個別指数の前月比変動傾向は以下の通り。



項 目	2026年8月指数(%)	2026年7月指数(%)	備 考
ISM 指数(PMI)	54.6	55.6	前月比1.0ポイント減。PMIが50%を上回ると製造業の拡大を示唆。
新 規 受 注	53.7	56.7	前月比3.0ポイント減。拡大の基準は51.9である。11業種が増加を報告した。
生 産	58.3	58.5	前月0.2ポイント減。拡大の基準は、52である。12業種が増加を報告。
雇 用	51.2	52.8	前月比1.6ポイント減。7業種が増加を報告した。
入 荷 遅 延	59.3	58.9	前月比0.4ポイント増。長期化の基準は、50以上。18業種中14業種が長期化を報告した。
在 庫	50.6	51.2	前月比0.6ポイント減。拡大の基準44.5ポイントを上回った。7業種が在庫増を報告した。
顧 客 在 庫	42.8	40.7	前月比2.1ポイント増。2業種が増加を報告した。
仕 入 れ 価 格	71.1	71.1	前月比0.0ポイント。15業種が増加を報告した。
受 注 残	51.8	55.0	前月比3.2ポイント減。11業種が増加を報告した。
輸 出 受 注	53.2	53.0	前月比0.2ポイント増。9業種が増加を報告した。
原 材 料 輸 入	52.5	55.7	前月比3.2ポイント減。7業種が増加を報告した。

※データは季節修正値

(ISM Manufacturing Report on Business 2026年9月1日付)

◆中国製造業 PMI 49.8%(8月)

8月の中国製造業購買担当者景気指数（PMI）は49.8%となり、前月から0.6ポイント上昇した。これは製造業の景況感が回復傾向にあることを示している。

企業規模別に見ると、大企業のPMIは50.6%（前月比1.1ポイント上昇）で、好不況の分かれ目となる50%を上回った。中堅企業のPMIは49.4%（同0.3ポイント低下）で50%を下回り、小規模企業のPMIは47.9%（同0.5ポイント上昇）で同じく50%を下回った。

製造業PMIを構成する5つの指数のうち、生産指数、新規受注指数、およびサプライヤー配送時間指数はいずれも50%を上回った。一方、原材料在庫指数と雇用指数はいずれも50%を下回った。

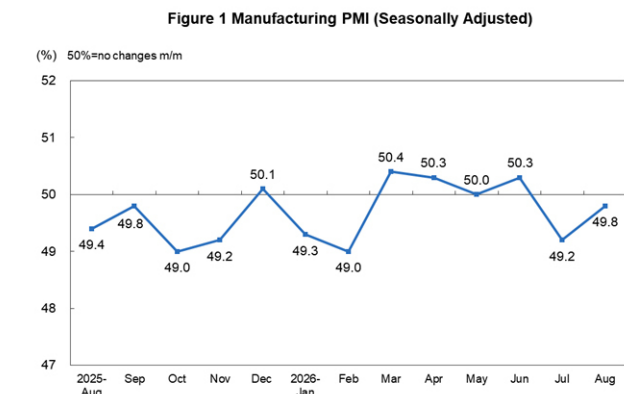
生産指数は50.4%（前月比0.5ポイント上昇）となり、製造業における生産活動が加速していることを示している。

新規受注指数は50.6%（前月比2.1ポイント上昇）となり、製造業における市場需要が大幅に改善したことを示している。

原材料在庫指数は48.1%（前月比0.2ポイント低下）となり、製造業における主要原材料の在庫が引き続き減少していることを示している。

雇用指数は48.7%（前月比0.3ポイント低下）となり、製造業における雇用情勢が悪化したことを示している。

サプライヤー配送時間指数は50.1%（前月比0.6ポイント上昇）となり、製造業向け原材料サプライヤーの配送時間が前月と比べて短縮したことを示している。



(Bureau of Statistics of China 2026年9月1日付)

◆中国「十五五」始動、行信部が新型工業化の重点政策発表

中国国務院新聞弁公室は8月26日、『「十五五」の好スタートに向けて』シリーズ記者会見を開催した。

会見では、工業情報化部(工信部)の幹部が、第15次5カ年計画(「十五五」、2026～2030年)の着実な実施と、新型工業化の加速に向けた今後5年間の重点政策について説明した。

工信部は、製造業の高度化を軸に、AI、スマートロボット、6G、集積回路、航空宇宙、低空経済、新型エネルギー貯蔵などの新興・未来産業を重点的に育成する方針を示した。また、AIのオープンソース・エコシステム構築や製造業へのAI導入、EV・自動運転の品質・安全対策、中小企業支援、ゼロカーボン工場の整備などについても具体策を明らかにした。

AI・ロボット：オープンソースと製造業への実装を加速

AIについては、研究開発だけでなく製造現場への実装を一段と重視する。

工信部によると、中国ではAIがすでに研究開発、設計、生産、品質検査、運用・保守など製造業の全工程に広がっている。6月末時点のAI向け計算能力は2,185 EFLOPSに達し、70本以上の主要な計算力ネットワークも整備された。

今後は業種別に「高価値AI活用シーン」を選定し、軽量・低コスト・導入しやすい業界別AIソリューションを普及させる。「AI+」「ロボット+」「5G+」「工業インターネット+」などの大規模な実証・導入も進める。

同時に、AIを中心としたオープンソース・エコシステムの育成にも力を入れる。活力あるオープンソースプロジェクトを育成し、オープンソースOSやデータセットを製造業へ展開。開発者や起業家にデータ、ツール、実証環境などを提供し、AI産業への参入を後押しする。

新興産業：ロボット、低空経済、航空宇宙を「支柱産業」に

「十五五」期には、集積回路、航空宇宙、バイオ医薬、低空経済、新型エネルギー貯蔵、スマートロボットなどを新たな「支柱産業」として育成する。

さらに、量子技術、バイオ製造、水素・核融合、ブレイン・コンピューター・インターフェース(BCI)、具身智能(Embodied AI)、6Gなどを将来の新たな経済成長源として位置付ける。

公共技術サービスやパイロット生産(中試)プラットフォームも強化し、新技術を研究段階から量産・産業化へつなげる。

6G：核心技術開発の「最重要分野」

工信部は、6Gを「十五五」期の核心技術開発における最重要分野と位置付けた。

6Gの核心技術、実証実験、標準化を加速し、商用化に向けた産業エコシステムを形成する。同時に5G・工業インターネットを製造、エネルギー、医療などへ大規模展開し、通信技術を「工場の生産ラインから鉱山・地下まで」浸透させる方針だ。

EV：量的拡大から「品質・安全」重視へ

中国の新エネルギー車(NEV)は「十四五」期に年間販売台数が136.7万台から1,649万台へ拡大し、新車販売に占める比率も5.4%から47.9%へ上昇した。

一方、工信部は過度な価格・開発競争や、自動運転の安全性、十分な試験を経ていない新技術の市場投入を問題視。「十五五」期には品質・安全管理を強化し、十分な試験・検証を経ていない製品の市場投入を厳しく制限する。

使用済みEVバッテリーについても、トレーサビリティを確保する「デジタル身分証」制度を導入し、2030年までに年間100万トン級以上の综合利用を目指す。

脱炭素・中小企業政策も強化

製造業のグリーン化では、「十五五」期に500カ所のゼロカーボン工場を育成・建設する。鉄鋼、非鉄金属、石油化学、化学、建材などの伝統産業でも、省エネ・低炭素化や原燃料転換を進める。

中小企業については「专精特新(専門化・精密化・特色化・革新化)」企業や「小巨人」企業をさらに育成。大企業と中小企業による共同イノベーションを促進するとともに、企業への未払い代金問題の解消や負担軽減策も進める。

【ポイント】

今回の発表から見えるのは、中国の産業政策が単純な「AI産業育成」から、AI・ロボット・6G・データ・通信インフラを製造業全体に組み込む段階へ移行していることだ。

特に注目されるのは、① AI・オープンソースの製造業への展開、② 具身智能・スマートロボットの育成、③ 6Gの核心技術開発、④ NEV政策の「量から質・安全」への転換、⑤ ゼロカーボン工場の拡大である。

「十五五」期は、これらの新技術を研究開発にとどめず、実証→量産→産業化→大規模普及まで一体的に進める5年間になるとみられる

(MRI NEWS LETTER 2026年8月28日付)

◆ 2026 年ドイツ工作機械産業情報

産業特性

1. 産業の地位と政策

ドイツの工作機械産業は、機械産業を構成する主要な業種の一つである。ドイツ工作機械工業会(VDW)によると、2025年のドイツ工作機械産業は従業員50人以上の事業所を基準に平均約6万4500人を雇用し、約138億ユーロ規模の機械とサービスを生産した。2025年の世界工作機械生産においても、ドイツは約12%のシェアを占め、中国に次いで世界第2位の生産国としての地位を維持した。

産業構造は高い輸出依存度と技術集約性を特徴としている。ドイツの工作機械メーカーは、通常生産の70%以上を海外市場に販売しており、2025年の世界工作機械輸出市場で約17%のシェアを占める見込みだ。特に高精度加工、オートメーション、複合加工、生産システムの統合に加え、エネルギー・素材の効率化、デジタル化、人工知能(AI)ベースの製造技術など、高付加価値分野を主要な競争力としている。

政策面では、工作機械産業だけを対象とした別個の大規模な産業政策よりも、公共投資の拡大、製造業のエネルギーコスト緩和、税制・研究開発支援など、製造業全体の投資環境改善策が産業需要に影響を与えている。代表的な例として、ドイツ連邦政府は2025年から総額5,000億ユーロ規模の「インラ・気候中立特別基金(Sondervermögen Infrastruktur und Klimaneutralität)」を運用している。特別基金は12年にわたり、交通・デジタル・病院などの社会基盤施設や気候中立関連投資に投入され、2026年には特別基金から580億ユーロを執行するなど、連邦政府全体の投資額を1,200億ユーロ以上に拡大する計画だ。このような公共投資は工作機械産業に直接支援される形ではないが、鉄道・交通インフラ、エネルギー、デジタル化および関連製造設備への投資を促進し、中長期的に機械や生産設備の需要を拡大する間接的な需要基盤として機能し得る。

製造業のコスト負担を軽減するためのエネルギー政策も強化された。ドイツ政府は2026年1月からガス貯蔵課徴金を廃止し、2026年の1年間で65億ユーロの連邦政府補助金を投入して電力網利用料を引き下げるとともに、約60万の生産企業(製造業・農林業など)に適用される電力税(Stromsteuer)をEUの最低税率水準に永久に引き下げた。エネルギー集約型産業を対象に、2026年から2028年までの期間限定で産業用電力価格支援制度も導入した。工作機械メーカーは大企業だけでなく多数の中小・中堅企業で構成されており、電力税や電力網コストの削減は、生産コストやドイツ国内の製造拠点競争力の観点からプラス要因となると見込まれる。

2. 主な規制

ドイツの工作機械市場に参入するためには、まずEUの機械安全規制を満たす必要がある。現在はEU機械指令(Machinery Directive, 2006/42/EC)が適用されており、製造業者は製品のリスク評価や必須の衛生・安全要件の遵守、技術文書の作成、適合性評価、EU適合宣言およびCEマーキングなどの手続きを踏む必要がある。ただし、現在施行中の機械類指針は2027年1月19日までしか適用されず、2027年1月20日からはこれを代替するEU機械類規則(Machinery Regulation, (EU) 2023/1230)が本格的に適用される予定である。新規規定は既存の指針とは異なり、EU加盟国の別個の国内法への移行なしに直接適用され、デジタル化とソフトウェアベースの機械の普及を反映して関連する安全要件を強化したことが特徴である。一定の要件を満たす場合、デジタル形式の使用説明書の提供が許可される一方で、安全機能に影響を与えるソフトウェアやデータが偶発的または意図的な変更によって危険を引き起こさないように設計する必要がある、サイバーセキュリティと機能安全の連携が強化された。それに伴い、韓国企業は2027年以降に発売される製品について、機械ハードウェアだけでなく制御ソフトウェア、リモートアクセス機能、ソフトウェア更新体制まで含めた適合性評価と技術文書の作成が必要となる。

人工知能機能を搭載した工作機械には、EUの人工知能法(AI Act, Regulation (EU) 2024/1689)が追加で適用される可能性がある。ただし、予知保全や工程最適化機能があるからといって、すべての工作機械が高リスクAIシステムに分類されるわけではなく、安全機能を果たすAIが関連要件に該当する場合、リスク管理、技術文書、記録・追跡性、人間の監督などの追加義務が発生する可能性がある。製品内蔵型高リスクAIの適用スケジュールは、後続の立法に応じて調整されており、発売時点に合わせた継続的な確認が必要である。

ネットワーク接続とリモート保守機能が拡大するにつれ、サイバーセキュリティ規制の重要性も高まっている。製品自体に直接適用される関連する主要規制は、EUサイバー復元力法(Cyber Resilience Act, CRA, Regulation (EU) 2024/2847)である。CRAは、デジタル要素を含む製品について、設計段階からサイバーセキュリティを考慮し、発売後も脆弱性を管理するようメーカーに求めている。主要製品の義務は2027年12月11日から適用されるが、実際に悪用されている脆弱性や重大なセキュリティ事故に関する製造業者の報告義務は2026年9月11日から先に施行される。インターネットやネットワークに接続されたCNC機器、遠隔モニタリング・診断機能を備えた工作機械および関連ソフトウェアは、CRAの適用可能性を検討する必要がある、今後はセキュリティアップデートや脆弱性対応体制も製品のEU市場適合性を構成する主要な要素になると見込まれる。

データを生成・送信するスマート工作機械の場合、EUデータ法(Data Act, Regulation (EU) 2023/2854)も重要性が増している。Data Actは2025年9月12日から適用されており、産業用機械を含む接続型製品のユーザーが製品使用過程で生成されるデータにアクセスし、これを活用または第三者と共有できるようにすることを主な内容としている。特に、2026年9月12日以降に市場に投入される接続型製品には、ユーザーが関連データにより容易にアクセスできるよう製品を設計する義務が課される。それに伴い、遠隔モニタリング、予知保全、生産データ分析などデータに基づくサービスを提供する工作機械メーカーは、機械データの所有・アクセス権、顧客のデータ利用方法、第三者保守業者とのデータ共有および営業秘密保護の方式を、製品設計および契約段階で併せて検討しなければならない。

＜ドイツ工作機械産業関連の主要規制現況＞

区 分	主な内容	工作機械企業への影響	主な適用時点
EU 機械指令 (2006/42/EC)	機械類の必須保健・安全要求事項、危険性評価、技術文書、適合性評価、EU適合性宣言、CEマーキングなどを規定	ドイツ市場に参入するための基本的な製品安全規制。ドイツ語取扱説明書と関連技術文書の準備が必要	2027年1月19日まで適用
EU機械類規定 ((EU)2023 / 1230)	既存の機械類のガイドラインを置き換えます。ソフトウェア、デジタル取扱説明書、自律機能、安全関連データ、サイバーセキュリティ要素を強化	制御ソフトウェア、リモート接続、安全機能変更の可能性などを含む製品全体のリスク管理および文書化が必要	2027年1月20日から適用
EU人工知能法 (AI Act)	AIシステムを危険度に応じて分類し、高リスクAIにリスク管理、技術文書、記録・追跡性、人間監督などの義務賦課	AIベースの安全制御機能などが高リスクAIに該当する場合、追加的な適合性・文書化義務が発生可能	適用時点はAIタイプに応じて段階的に実施
EUサイバー復元力法 (CRA)	デジタル要素を含む製品に対して設計段階からサイバーセキュリティ確保、脆弱性管理、セキュリティアップデートなどを義務化	ネットワーク接続型CNC、リモートモニタリング・診断機能、関連ソフトウェアなどに直接的な影響	脆弱性報告義務 2026年9月11日、主な製品義務2027年12月11日
ネットワークおよび情報システムのガイドライン(NIS2)	主要・重要企業のサイバーセキュリティリスク管理、事故報告及びサプライチェーンセキュリティ義務を強化	製品自体のCE認証要件ではないが、適用対象ドイツの顧客がサプライヤーにセキュリティレベルやリモート接続管理などを要求する可能性を拡大	ドイツ国内法の履行に応じて適用
EUデータ法 (Data Act)	連結型製品で生成されるデータに対するユーザーのアクセス・利用・第三者共有権限を規定	スマート工作機械の生産データ、予知保全、遠隔監視サービスなどへのデータアクセスおよび契約条件整備が必要	基本適用 2025年9月12日、連結型製品設計関連一部義務 2026年9月12日

資料：EU執行委、ドイツ連邦政府

3. 主要企業の現状

ドイツの工作機械産業は、少数の超大企業が市場を支配するのではなく、特定の加工技術と需要産業に専門性を蓄積した中堅・大企業が多数存在する構造を示している。各社は旋削、フライス加工、5軸加工、研削、ギア加工などの主要加工技術に特化すると同時に、近年は個別装置の販売にとどまらず、オートメーション、ロボット連携、ソフトウェア、デジタルサービス、ターンキー生産システムまで事業領域を拡大している。それに伴い、工作機械企業の競争力も、個別装置の精度や加工速度だけでなく、複数の工程を一つの設備や生産ラインに統合し、顧客の生産工程全体を設計・自動化する能力へと拡大する傾向にある。

代表的なドイツの工作機械メーカーとしては、DMG MORI、HELLER、CHIRON Group、GROB-WERKE、EMAG Groupなどがある。その中で、130年以上の歴史を持つマシニングセンタ専門企業HELLERは、2026年1月に韓国のDNソリューションズに買収された。今回の買収により、DNソリューションズは従来の旋盤・マシニングセンタ中心の製品群に、HELLERの高度な水平型4・5軸マシニングセンタと生産システム技術を加えることとなった。

＜ドイツ主要工作機械企業現況＞

企業	主な分野	重要な特徴
DMG MORI	旋削、フライス加工、5軸加工、研削、レーザー・超音波加工、積層製造、自動化	ドイツに主要生産・開発基盤を持つグローバル工作機械グループで、幅広い製品群と自動化・デジタルソリューションを組み合わせた総合生産ソリューションを提供
HELLER	4・5軸横型マシニングセンタ、柔軟生産システム(FMS)、ターンキー生産システム	複雑な部品の精密加工と自動化生産システムに強み。2026年1月、韓国DNソリューションズが買収完了
CHIRON Group	CNC立型マシニングセンタ、ミルトン(ミリング・ターニング複合)加工、自動化、ターンキーソリューション	高速・高精度加工と自動化結合に強み。自動車、医療技術、航空宇宙、精密技術など多様な産業を対象に生産ソリューションを提供
GROB-WERKE	マシニングセンタ、生産・自動化システム、電動化生産設備	大型ターンキー生産ライン構築能力を保有し、電気モーター、バッテリーセル・モジュール、燃料電池など電動化生産システムで事業領域を拡大
EMAG Group	旋削、研削、歯車加工、レーザー溶接、電気化学加工	垂直ピックアップ方式の自動化装置と複数の加工工程を組み合わせた多工程統合型生産システムに特化

資料：各企業公式ホームページ、DNソリューションズ

4. 最新技術動向

ドイツの工作機械産業における技術競争は、個別装置の加工速度と精度を向上させる段階から、生産工程全体の生産性と柔軟性を最適化する方向へと拡大している。熟練人材の不足と高い人件費、エネルギー・原材料コストの負担が同時に作用し、自動化、デジタル接続性、人工知能(AI)、プロセス統合、エネルギー・資源効率が核心技術の競争要素として浮上している。

自動化は、単純な大量生産から多品種少量生産に対応する柔軟な自動化へと移行している。工作物の種類や生産量の変化に応じて、設備や周辺機器を迅速に再構成し、ロボットや自動倉庫、AMRなどを接続して夜間・週末の無人生産時間を拡大する方式である。同時に、旋削・フライス・研削などの複数の工程を1つの装置または1つの生産セルに統合する工程統合(Process Integration)も拡大している。

5. 主要な課題

ドイツの工作機械産業は、2026年に緩やかな景気回復の可能性が指摘される一方で、以下のような複数の構造的課題に直面している。

第一に、中国の工作機械産業の急速な輸出拡大とグローバル競争の激化である。VDWによると、中国の2025年の工作機械輸出は前年比13%増の86億ユーロとなり、初めてドイツを抜いて世界最大の輸出国となった。一方、ドイツの輸出は10%減少し、70億ユーロにとどまった。中国企業は新興市場だけでなく、ドイツ、ポーランド、イタリアなど欧州市場でも存在感を拡大している。

第二に、自動車中心の需要構造が再編されている。VDWの2025年顧客構造調査によると、自動車・部品産業の比率は約23%に低下した一方で、機械産業は約27%となり、最大の顧客産業となった。これは、電気自動車への転換と自動車産業の投資低迷により、エンジンやトランスミッションなど内燃機関パワートレイン関連の加工需要が減少したためである。内燃機関関連の加工需要が減少する中、工作機械の需要産業は航空宇宙、防衛産業、電気・電子、医療技術、エネルギーなどに多様化している。このような多様化は、自動車需要の減少を単に量で代替するのではなく、既存の精密加工・自動化技術を新たな高付加価値市場に適用する方向で進められている。

第三に、関税や貿易障壁の拡大に対応した生産の国際化が加速している。ドイツの工作機械産業は伝統的にドイツで生産した機器を海外に輸出する構造を維持してきたが、最近では主要市場で直接生産し現地の顧客に供給する「Local for Local」戦略の重要性が高まっている。VDWによると、ドイツの12社の大手工作機械メーカーが海外生産拠点を運営しており、これらの企業の海外生産はドイツの工作機械産業全体の生産の5分の1以上を占めている。地域別の海外生産比率は、ヨーロッパが45%、中国が32%、米国が20%で、主要販売市場に近い地域での生産・供給体制が拡大している。ただし、生産の国際化がドイツの製造基盤の単なる海外移転を意味するわけではない。高級工作機械の核心研究開発と高度な生産は依然としてドイツに集中している一方で、海外拠点は現地市場に適した製品の生産や組み立て、販売・サービスを担当する形が主流となっている。

第四に、景気低迷に伴う雇用調整と中長期的な専門人材不足が同時に顕在化している。2025年、ドイツの工作機械産業の生産と受注の不振が続く中、企業は生産能力の調整と人員削減に乗り出した。従業員50人以上の事業所を基準に、2025年12月の業界雇用は約6万2700人で、前年同期比で4.1%減少した。2025年の平均設備稼働率も76%で前年より6.1%p低下し、長期平均を大きく下回っており、短期的には低い稼働率と需要の低迷に対応するための人員調整が避けられない状況だ。しかし、雇用の減少がすぐに専門人材需要の構造的な減少を意味するわけではない。自動化、AI、ソフトウェア、センサー、データ分析、複合加工など、工作機械の技術構造が高度化する中で、機械設計や加工技術だけでなく、電気・電子、ソフトウェアおよびデータ技術を理解する専門人材の重要性がますます高まっている。

資料：ドイツ工作機械製造業協会(VDW)、ドイツ機械設備産業協会(VDMA)、ドイツ連邦政府、ドイツ連邦財務省、ドイツ連邦統計局、欧州連合執行委員会、欧州連合法令情報システム、国際ロボット連盟(IFR)、EMO Hannover、GrindingHub、umati、DMG MORI、HELLER、CHIRON Group、GROB-WERKE、EMAG Group、DNソリューションズ、KOTRAハンブルク貿易館総合

https://dream.kotra.or.kr/kotranews/cms/news/actionKotraBoardDetail.do?SITE_NO=3&MENU_ID=190&CONTENTS_NO=2&bbsGbn=254&bbsSn=254&pNttSn=243098

(kotra海外市場ニュース 7月31日付)

◆ドイツ工作機械業界の受注高、第2四半期 12% 増加

ドイツ工作機械業界の回復が本格化している。2026年第2四半期の受注高は、前年同期比で12%増加した。

第1四半期の15%増に続き、上半期全体では14%の伸びを記録した。内需は16%増、海外からの受注は13%増となった。

「2四半期連続で受注が二桁増となったことは、心強い兆候だ。低迷期は脱し、現在は好転に向かう軌道に乗っている」と、VDW（ドイツ工作機械工業会）の経済・統計部門責任者であるベルンハルト・ガイス氏は今回の数値についてコメントしている。「しかし、全面的に楽観視するにはまだ早すぎる。

比較対象となる基準値が低かったことや、プロジェクト案件が依然として成長に大きく寄与していることが要因だからである。需要が広範に回復していると断言できる状況にはない」

顧客業界によって、その動向には依然として大きなばらつきがある。航空・防衛分野の動きは特に活発である。エレクトロニクス業界や医療技術分野からの需要も旺盛だ。一方、金属加工や一般機械製造の状況は依然として厳しく、自動車および自動車部品業界においては、引き続き最大の課題に直面している。同業界のドイツ工作機械業界の総売上高に占める割合は、2025年には23%にまで低下した。最大の顧客セクターは依然として一般機械製造業で、27%を占めている。対照的に、航空業界のシェアは大幅に拡大し、2年間で5ポイント上昇して11%に達した。

受注状況の改善、生産への波及はまだこれから

この回復の動きは、まだ生産面には波及していない。第2四半期の生産額は、前年同期比で6%減少したと推定されている。上半期全体では、生産額は合計で7%減少し、約59億ユーロとなった。

しかし、受注状況の改善は、年後半にかけて生産面にもより大きな影響を及ぼすものと見込まれる。

輸出活動においても、安定化の兆しが見られる。第2四半期の輸出額は、前年同期比で4%減にとどまった。第1四半期と比較すると、減少のペースは大幅に鈍化した。米国は最大の市場として、依然として業界の重要な柱であり続けている。上半期の対米出荷は8%増加した。対照的に、第2位の市場である中国への輸出は24%減少した。しかし、最近では中国での需要が安定し、わずかながら回復の兆しが見え始めている。激しい価格競争を背景に、現地に生産拠点を構えるドイツのメーカーにとって、「Local for Local(地産地消)」の原則は依然として重要な指針となっている。

欧州市場に目を向けると、ドイツの工作機械業界の輸出は上半期全体で6%減少した。フランスでは25%増と好調な動きが見られ、同国は再び第3位の主要販売市場としての地位を取り戻した。ポーランドやチェコ共和国でも好調な動きが見られた。インドは継続的な成長軌道を維持し、同業界にとって第4位の市場へと成長した。

国内受注の増加

一方で、国内市場の状況は依然として厳しく、上半期の国内販売額は前年同期比で10%減少した。しかし、国内受注の増加という前向きな兆しも見られる。

ifo景況感指数や購買担当者景気指数(PMI)といった経済指標も、業界の先行きが改善傾向にあることを示している。輸入は2%減にとどまり、国内販売に比べて底堅く推移した。特に日本や韓国のメーカーは、ドイツでの販売を伸ばすことができた。全体として国内消費は6%減少し、ドイツ市場における設備投資の低迷が依然として解消されていないことを浮き彫りにした。

設備稼働率は最近、約75%で安定している。同時に、業界の構造調整も続いている。6月時点での業界の雇用者数は約6万人で、前年同月比で6%強の減少となった。現在の生産量は、過去のピーク時と比べて約3分の1低い水準にある。」

(VDW Press Release 2026年9月9日付)

◆欧州通商政策動向

炭素国境調整メカニズム（CBAM）：最近の動向

- 欧州委員会は、8月14日、EU域外事業者を対象としたCBAMの実施に関する10件のガイダンス文書を公表した。そのうち4件は分野横断的な情報(CBAMの概念、域外事業者向けガイド、組込排出量の計算、無償割り当て調整の計算)であり、残りの6件は産業別(セメント、水素、肥料、鉄鋼、アルミ、電力)のガイダンスとなっている。欧州委員会ニュース
- 欧州委員会は、7月31日にCBAMの誤ったデフォルト値を修正する実施規則が発効したことを受け、8月10日にCBAM本格実施期間におけるデフォルト値をまとめたExcel文書を更新した。Excel文書
- EUの鉄鋼産業団体のEUROMETALは、8月18日に「岐路に立つ欧州鉄鋼産業」と題する報告書を公表した。報告書は、現行のCBAMは、輸入一次製品にのみ適用されるため、加工品に代えることで回避される可能性があり、EUの産業に歪みをもたらすリスクがあると指摘。その上で、オフショアリングを防ぐためにCBAMを鉄鋼派生製品や金属を多用する製品に拡大するとともに、ETSの無償割り当ての段階的廃止を調整し、公共調達において拘束力のある「欧州産」要件を導入し、鉄スクラップの輸出を監視・管理するよう求めている。EUROMETAL報告書
- 米国駐EU大使は8月12日、CBAMは実質的に米国の輸出業者に対する関税であると批判を述べた。これに対し、欧州委員会の報道官は、CBAMを関税に例えることには同意できないと反論し、CBAMは気候変動対策であり、非差別的かつWTOに準拠した枠組みであると説明した。米大使X投稿、EU報道官会見
- 8月18日に開催された第12回BRICS環境大臣会合の共同声明は、CBAMのような国際法に反する「一方的、懲罰的、差別的かつ保護主義的な措置」への反対を表明している。また声明は、こうした措置が開発途上国の気候変動対策の取り組みに悪影響を及ぼすと主張している。BRICS共同声明

包装・包装廃棄物規則が8月12日に適用開始

EUでは、2025年に採択された包装規則が8月12日に適用開始された。新規則は、包装廃棄物の削減目標や特定の使い捨てプラスチック包装の禁止、包装の最小限化、空きスペース制限、再使用可能包装の使用目標、拡大生産者責任(EPR)などを規定している。今回の適用開始に合わせて、PFASを一定割合以上含む食品接触包装の流通が禁止される。

(Europenリリース、EEBリリース 2026年8月12日)

強制労働禁止規則（FLPB）：欧州委員会が単一ポータルにオンラインツールリストを追加

EUでは2024年に発効したFLPBが2027年12月14日から適用開始される。それに先立ち欧州委員会は、FLPB規則の実施に役立つリソース一覧をまとめた「強制労働単一ポータル」を更新し、サプライチェーンのトレーサビリティに役立つ無料のオンラインツールリストを追加した。また、ステークホルダーに対し、追加すべき他のツールがあれば欧州委員会に情報を提供するよう呼びかけている。

FLPB単一ポータル

関税法（UCC）の改正：EU 理事会が暫定合意文書を承認

欧州議会とEU理事会が2026年3月に暫定合意したEU関税法の改正をめぐり、EU理事会は9月3日に合意文書を正式に承認した。改正は両機関による正式な採択の後、EU官報に掲載された後に発効し、12か月後から適用開始される。今回の改正には、直接EU域内の消費者へ送付される貨物に対する取扱手数料の導入や、こうした販売を仲介する事業者の責任強化、税関検査の簡素化・デジタル化、EU税関データハブの設置などが盛り込まれた。

(EU理事会リリース 2026年9月3日)

炭素国境調整メカニズム（CBAM）：EuroCommerce が適用範囲拡大への懸念を表明

欧州委員会が2025年12月に提案したCBAMの対象範囲の拡大案をめぐり、小売・卸売部門を代表する欧州業界団体のEuroCommerceは、9月7日に意見を公表した。特に、適用範囲を拡大すれば、複雑なグローバルサプライチェーンを運営する小売業者、卸売業者、および中小企業にとって、行政上・コンプライアンス上の負担が大幅に増加するとし、対象拡大は時期尚早であると指摘している。またEU域外のサプライヤーからの信頼性の高い排出量データの入手の難しさや標準化された方法論・検証プロセスの欠如も問題として指摘している。そのうえでEuroCommerceは、効果的な執行、簡素化され検証可能な報告枠組み、徹底した影響評価、より強力な国際協力といった主要条件が揃うまで、現在の立法プロセスを一時的に停止するよう要請している。

(EUROCOMMERCEポジションペーパー 2026年9月7日)

強制労働禁止規則（FLPB）：ガイドラインが官報に掲載

EUでは2024年に発効したFLPBが2027年12月14日から適用開始される。それに先立ち、新規則の適用に関するガイドラインが9月3日のEU官報に掲載された。同ガイドラインでは、FLPBの適用範囲、調査手続き、執行・罰則、強制労働デューデリジェンスの指針、禁止措置の違反の疑いに関する情報提出などについて説明している。

(EU官報ガイドライン 2026年9月3日)

欧州委員会が REACH 規制ロードマップの改訂版を公表

REACHおよびCLPに関する加盟国所轄官庁の専門家グループ(CARACAL)の7月会合での議論を受け、欧州委員会はREACH規制ロードマップの改訂版を公表した。同ロードマップは、REACH規則に基づく有害物質規制(現在実施中・計画中)の概要をまとめている。改訂版では構成が明確化された他、新項目も追加された。

(改訂版ロードマップ)

サイバーレジリエンス法（CRA）：ENISA と欧州委員会が FAQ を更新

EUでは9月11日に「サイバーレジリエンス法(CRA)」の一部の施行が開始される。それに先立ち、ENISAは、単一のインシデント報告プラットフォームに関するFAQおよびガイダンスを更新し、欧州委員会は一般的なFAQを更新した。

(ENISA ページ、FAQ、欧州委員会CRAページ 2026年9月16日)

欧州シンクタンクがEUのデジタル規制枠組みに関する報告書を公表

欧州政策を専門とするシンクタンクのCEPSは、9月3日にEUのデジタル法枠組みに関する報告書を公表した。報告書は、規制を簡素化し、「開かれた戦略的自律性を強化するためのデジタル法枠組み改革の必要性を強調している。またAI法に関しては、全体的な実施枠組みを完成させ、実践的で事例に基づいたガイダンスを提供し、AIの責任の所在を明確にする必要性を強調。GDPRおよびサイバーセキュリティ枠組みに関しては、分野横断的な規則と分野固有規則の間に重複・不整合が存在することや、域内における執行の断片化を指摘している。

(CEPS報告書 2026年9月、記事 2026年9月3日)

◆海外業界動向：中国

中国の機械・工作機械セクターは2026年の好調なスタートを切り、精密製造技術に対する世界的な需要に関心を持つAMT（米国製造工業技術協会）の会員企業にとって、大きなビジネスチャンスをもたらしている。中国機械工業連合会(CMIF)の報告によると、機械業界の物品貿易総額は前年比15.9%増の6,928億ドルに達した。この成長は、輸出の加速と、高度な技術を駆使した設備への需要拡大によって牽引された。

主要市場で高まる輸出の勢い

輸入額は前年比1.4%増の1,334億ドルとなった一方、輸出額は20%増の5,593億ドルへと急増し、多くの市場で伸びが見られた。

- 「一帯一路」沿線国：22%増
- 地域的な包括的経済連携(RCEP)加盟国：21.6%増
- 欧州連合(EU)：33.1%増
- 東南アジア諸国連合(ASEAN)：19.5%増

ドイツ、ベトナム、インド向けの輸出は、それぞれ22.8%、18.8%、26.5%増加した。これは、既存および新規の製造拠点双方において需要が堅調であることを示している。対米輸出は0.4%減少したものの、減少幅は縮小傾向にあり、国際ビジネスを展開するAMT会員企業にとって貿易状況が安定しつつあることを示唆している。

特に高い伸びを示したのは、ハイエンド機器や新エネルギー関連機器である。自動車および電気乗用車の輸出は前年比でそれぞれ53%、76%増加し、リチウムイオン電池の輸出も42.7%増加した。発電機、変圧器、制御装置などの電気機器に加え、油圧ショベル、ローダー、電動フォークリフトなどの建設機械、さらには鉱山機械やコンベアシステムといった重機に至るまで、いずれも力強い成長を続けた。

注視すべき工作機械市場

中国工作機械工業協会(CMTBA)は、国家統計局および中国税関のデータに基づき、2026年上半期の工作機械・工具の貿易総額が前年比5.9%増の172億ドルに達したと報告した。輸入額は53億5000万ドル(6.3%増)、輸出額は118億4000万ドル(5.8%増)となる。これは、工作機械分野が輸出入の双方で成長していることを示している。輸入相手国の上位5カ国・地域は、日本、ドイツ、台湾、韓国、スイスの順で変わりなかった。

その内訳を見ると、金属加工用工作機械の輸入額は前年比2.6%減の26億1000万ドル、輸出額は0.3%増の45億7000万ドルであった。主要な製品カテゴリーとしては、マシニングセンタ、特殊加工機、研削盤、歯車加工機、旋盤などが挙げられる。

AMT（米国製造技術工業協会）の会員企業にとって極めて好ましい兆候の一つは、金属切削工作機械の新規受注が前年比20.5%増加したことである。これは、新たな産業分野からの旺盛な需要に牽引された。メーカー各社は、AI向け液冷コンポーネント、精密サーバー部品、人型ロボット用部品、新エネルギー蓄電池用部品やインバーターなどの製造を急速に進めている。これらはいずれも、AMT会員企業が提供するような、高精度かつスマートで、高度に統合された工作機械システムを必要としている。

設備需要の拡大を示唆する新規投資の動き

精密製造分野への新規投資が活発化していることを示す5つのプロジェクトを紹介する。いずれのプロジェクトも、AMT会員企業が提供する工作機械や自動化システムへの需要拡大につながる可能性がある。

- Liangshan Xin Yi Tong Hydraulic Tech Co.（梁山新一通液圧技術）：自動車用精密部品の生産ライン構築に7900万ドルを投資。同社は、加工設備、平面研削盤、ワイヤカット放電加工機、多軸ドリル加工機、表面粗さ検査システムなどの導入を計画している。
- Shuangjie Smart Tech Co.（双傑智能技術）：産業用ロボットの製造に7400万ドルを投資し、年間1万台の生産を目指している。
- Shaoxing Zhongzhou Automatic Equipment Co.（紹興中洲自動化設備）：産業用3Dプリンターの製造に2850万ドルを投資する。
- Tian Jian Long Wei (Yangzhong) Automotive Component Co.（天健龍威（揚中）汽車零部件）：スマートステアリング装置の生産に2140万ドルを投資し、年間45万台の生産を計画している。
- Zhuhai Bojay Electronics Co.（珠海博傑電子）：1億4000万ドルを投じて新施設を建設し、サーバー検査や放熱部品製造のための精密彫刻機、マシニングセンタ、真空ろう付け装置、リーク検査システムなどを導入する。

（AMT ONLINE 2026年9月8日付）

◆海外業界動向：マレーシア、半導体・航空宇宙などで60億ドルの投資を獲得

マレーシアは今年第1四半期（1～3月）に、多岐にわたる産業分野における501件のプロジェクトに対し、総額約60億ドルの製造業向け投資を承認した。

分野別では、電気・電子機器が15億ドルで首位を占めたが、機械・設備メーカーが8億6,000万ドル、輸送機器メーカーが5億4,000万ドル投資した。化学、食品製造、医療機器の各セクターも、同四半期中にマレーシアで投資を行っている。

こうした最近の発表は、AMT（米国製造技術工業協会）の会員企業にとって幅広いビジネスチャンスがあることを示唆している。産業用冷却システム、航空宇宙部品の修理、車載用電子機器、実験用機器、自動化システム、半導体製造装置といった分野で新規プロジェクトの立ち上げや既存事業の拡大が進んでおり、機械加工、金属加工、成形、溶接、金型・治具製作、検査、生産自動化技術への継続的な需要が生まれている。

産業用冷却システムおよびインフラ

メリーランド州に拠点を置く冷却・排熱システムメーカー、ボルチモア・エアコイル社(BAC)は8月、クアラルンプール近郊で製造工場の起工式を行った。総工費1億5,000万ドルを見込むこの工場では、アジア太平洋地域のデータセンター、産業プラント、商業ビル、発電施設、食品加工・冷凍設備向けの冷却システムが製造される予定。

冷却・排熱システムには、板金部品、構造部材、配管、熱交換器、加工済みアセンブリなどが大量に必要とされる。BACはこのプロジェクトを段階的に完了させる計画であり、将来的に多くの設備導入やサプライヤー参入の機会が創出されると見込まれる。

他の市場と同様、マレーシアでもデータセンター産業が急速に成長している。データセンター自体が工作機械を大量に購入するわけではないが、同産業の拡大は、冷却システム、電気設備、バックアップ電源システム、加工済み筐体(エンクロージャー)、その他インフラ関連製品への需要増大につながっている。

実験用機器および精密機器

ドイツの実験用機器メーカーであるエッペンドルフ(Eppendorf)社は7月、ペナン州に4,600万ドル規模の製造工場を建設することで合意した。生産開始は2028年を予定。

同施設では、研究、診断、製品開発、製造、品質保証の各工程で使用される遠心分離機やその他の実験用機器が製造される予定。エッペンドルフ社は、現地化やサプライヤー育成に関してマレーシア企業と連携するよう推奨されており、これがさらなるビジネスチャンスにつながる可能性がある。

半導体製造装置

マレーシアのデータセンター産業を活性化させているデータおよびAIブームは、半導体製造への投資も後押ししている。AMT(米国製造技術工業協会)の会員企業が半導体製造の現場へ直接製品を販売することは難しい場合でも、半導体製造装置や部品を製造する企業への供給は可能である。

ドイツのAixtron(アイクストロン)社は、ペナンに4,600万ドル規模の製造・エンジニアリング施設を建設する計画。同社は化合物半導体産業で使用される成膜(デポジション)装置を製造している。新施設にはクリーンルーム、物流エリア、オフィス、製造設備、エンジニアリング部門、組立ラインが設けられ、来年から稼働を開始する予定。

Aixtron社は現地での長期的なパートナーシップの構築を目指しており、これにより、精密加工部品、組立品、真空システム部品、自動化技術、計測技術、その他の生産技術に対するマレーシアのサプライヤーからの需要が創出されると期待されている。

米国のMKS Instruments社は6月、ペナンにおける「スーパーセンター」工場の第一段階の建設を開始した。総額1億ドルを投じるこのプロジェクトが全段階完了すれば、1,000人以上の雇用が創出される見込みである。同工場はウェハ製造装置を生産するもので、すでにフェーズ1が稼働している。MKS社は複数の段階的な計画を立てており、サプライヤーにとって将来的なビジネスチャンスが生まれることになる。

半導体パッケージング分野への投資も依然として非常に活発である。

- Nexperia(ネクスペリア)：組立・検査能力を倍増させるために4億ドルを投資
- WaferWise(ウェハワイズ)：ウェハレベル・パッケージング施設に1億7,500万ドルを投資する計画
- Chipbond Technology(チップボンド・テクノロジー)：ペナンに2億ドル規模の施設を開設

地域の装置ハブとサプライチェーンの取り組み

ペナン州は、この現地装置製造ネットワークの構築に総力を挙げて取り組んでいる。同州は「ペナン・オートメーション・テスト・アンド・エクイップメント(ATE)キャンパス」用に10エーカーの工業用地を確保した。このキャンパスは、多国籍メーカーとマレーシアを代表する自動化・装置関連企業18社(ViTrox、Pentamaster、Waltaなど)を一堂に集め、現地調達やサプライヤー育成の機会を模索することを目的としている。

航空宇宙・自動車分野の機会

Collins Aerospace(コリンズ・エアロスペース)は、同社の部品保守・修理・オーバーホール(MRO)事業の拡張を完了した

クアラルンプール近郊での6,300万ドル規模の拡張プロジェクトにより、同施設の面積は従来の46,000平方フィートから164,000平方フィートへと拡大した。増設された施設では、エアサイクルマシン、熱交換器、バルブ、航空機用スターターなどの取り扱いが行われる。

自動車関連のニュースとしては、マレーシアのティア1(一次下請け)自動車部品サプライヤーであるMCEホールディングス(MCE Holdings Berhad)が、クアラルンプール近郊に自動車用エレクトロニクス拠点の第一段階を開設した。初期投資額は1,200万ドルだが、これは今後10年間で総額4,900万ドルに達する長期計画の一環である。この計画では、電子制御ユニット(ECU)、先進運転支援システム(ADAS)製品、スマートコックピット向け電子機器の生産が予定されている。

(AMT ONLINE 2026年8月21日)

◆米国通商政策動向：輸入半導体に対するセクション 232 関税の適用拡大

トランプ政権は、輸入半導体および半導体を含む製品(サーバー、ノートパソコン、ゲーム機、その他の電子機器など)を対象に、セクション232関税の適用範囲を拡大することを検討していると報じられている。POLITICOによると、ハワード・ルトニック商務長官は、関税軽減を米国の半導体製造への投資と連動させることを支持している。この提案は現在も議論中で、適用範囲、税率、割当量、免除対象、実施スケジュールはまだ確定していない。

この関税拡大の可能性は、2026年1月14日に発令された、特定の先端コンピューティングチップおよび派生製品に対する25%の関税を課す大統領布告に続くものである。現行措置では、米国のデータセンタ、研究開発、スタートアップ企業、消費者向け製品、公共部門向けアプリケーション、および国内技術開発を支援するその他の活動で使用される対象となる輸入品は免除されている。この布告では、米国における半導体生産に投資する企業に対するより広範な関税と優遇措置も検討されている。ホワイトハウスは、NvidiaとAMDがTSMCやSamsungを含むアジアのメーカーに引き続き大きく依存していることを明らかにした。TSMCはアリゾナ州の施設に2,650億ドルを投資する計画を発表したが、計画されている生産能力の大部分はまだ開発段階にある。業界関係者は国内半導体生産の拡大を支持しているが、米国内の生産能力が増強される前に広範な関税が実施されれば、コスト上昇、チップ供給への影響、AIインフラプロジェクトの遅延につながる可能性があると主張している。一方、政権は関税と投資連動型減免措置を、国内生産を促進し、海外サプライチェーンへの依存度を低減するための手段と捉えている。

(Global USA 2026年9月1日)

◆米国通商政策動向：特定のカナダ製品に対する第338条に基づく関税

2026年8月21日、米国税関・国境警備局(CBP)は、特定のカナダ製品に対する第338条に基づく追加関税の申告手順を定めたCSMS通知第69606660号を発行した。3日間の暫定的な停止期間を経て、当該措置は米国東部時間の8月22日午前0時1分に発効した。対象となる輸入申告は、HTSUS(米国調和関税率表)の項番9903.03.12から9903.03.16に基づいて報告する必要がある。

項番9903.03.12から9903.03.14は、関連する大統領布告の附属書に記載された製品に対し、50%の追加関税を課すものである。項番9903.03.15および9903.03.16は、特定の金属、車両およびその部品、木材製品、半導体、特許医薬品、民間航空機、および関連部品について、追加関税率を0%と定めている。これらの「セクション338」に基づく関税は、通常関税やその他の適用される貿易救済措置に上乗せして適用される。対象となる輸入貨物は、第98章の規定(特例措置)や関税払戻し(ドローバック)の対象となる可能性があるが、外国貿易地域(FTZ)に搬入される対象貨物は、原則として「特権的外国貨物ステータス(privileged foreign status)」で受け入れられる必要がある。

当該附属書の内容は、布告の根拠となったアルコール、乳製品、自動車に関する政策の範囲を大きく超えており、それらとは無関係な多数の一般消費者向け製品や産業用製品も含まれている。したがって、輸入業者は、一般的な製品説明に頼るのではなく、完全な関税率表と照らし合わせてカナダ原産品を確認する必要がある。また、CBP(米国税関・国境警備局)の通知における第98章および関税払戻しに関する規定には、項番9903.04.12から9903.04.14への言及において誤りがあるものと見受けられる。

輸入業者は、公表された申告手順を独自に変更するのではなく、明確な説明を求めるとともに、CBPからの情報を注視すべきである。

(Global USA 2026年9月1日)

◆米国通商政策動向：米国・カナダ間の貿易紛争

米国とカナダは、2026年8月下旬に貿易紛争を激化させた。米国は8月22日付で、1930年関税法第338条に基づき、自動車、乳製品、アルコール飲料に関連するカナダ産品(総額約276億カナダドル相当)に対し、50%の追加関税を課した。この関税は、USMCA(米国・メキシコ・カナダ協定)の下で特惠待遇の対象となる品目にも適用される。これに対しカナダ政府は、同等の価値を持つ米国産品を対象に、15%、25%、および50%の報復関税を2026年9月8日付で導入すると発表した。対象品目には、鉄鋼、アルミニウム、乳製品、家電製品、農業機械、パルプ・紙、プラスチック、電子機器、家具、衣料品などが含まれる。

その後、カナダ政府は業界からの異議を受けて対象リストから水産物を除外する一方、報復措置の総額を維持するために銅線と木炭を追加した。また、影響を受ける企業や労働者に対し、資金繰り支援、投資促進、雇用保険、職業訓練、事業多角化支援など、総額75億カナダドル規模の支援策も発表した。

カナダの言語・文化・デジタルコンテンツ政策に対する米国の異議については限定的な進展が見られたものの、8月28日時点で交渉は正式に再開されていなかった。自動車、金属、乳製品、アルコール類、そしてカナダのより広範な経済関係をめぐっては、依然として大きな対立が続いている。こうした対立は、USMCAや、米国の関税措置からの救済を求めるメキシコの取り組みをめぐる不確実性を高めしており、北米全域で関税やサプライチェーンの変動が続く可能性を示唆している。

(Global USA 2026年9月1日)

3. 工作機械関連企業動向

◆ DN ソリューションズ、インドでの成長を目標に 60 億ルピーを投じるベンガルール工場を開設

韓国を代表する工作機械メーカーであり、世界有数の工作機械メーカーであるDNソリューションズは、インド初の製造工場をカルナータカ州ベンガルールITIR工業団地に開設したことを正式に発表した。これは、2003年に中国の煙台工場を設立して以来、同社にとって初の海外製造投資となる。インド初の製造工場開設は、DNソリューションズがインドを長期的な成長戦略とグローバルサプライチェーンネットワークにおける戦略的柱として位置づけるという強い決意を示すものである。

DNソリューションズは、第1段階の投資額60億ルピー（約6,200万米ドル）を全額投資した。同社は、市場需要と事業成長に応じて、今後の段階で同規模の追加投資を検討している。カルナータカ州工業地域開発委員会(KIADB)と共同で開発された25エーカーの施設は、研究開発、製造、技術センター、アフターサービスを統合し、当初はSVM立形マシニングセンタとLYNX/LEO横形旋盤を生産し、将来的には5軸加工機の生産も計画している。

DN Solutionsは、1994年のインドにおける最初の販売開始以来、過去32年間にわたりインドでの事業を着実に拡大してきた。2008年にはバンガロール技術センターを、2016年にはインド子会社を設立している。同社は、バンガロール工場は韓国や中国からの製造拠点の移転ではなく、インドにおける生産能力構築を目的とした全く新しい投資であると強調している。DN Solutionsは、インドを急速に成長する国内経済、豊富なエンジニアリング人材、若い人口、英語を話せる労働力、そして政府の「メイク・イン・インド」構想に基づく製造業への投資増加といった点で、戦略的に重要な市場と位置付けている。

同社によると、カルナータカ州、特にベンガルールは、精密製造、自動化、エンジニアリング人材、サプライチェーン能力において、インドで最も競争力のある産業エコシステムを提供している。

DN SolutionsのCEO、ウォンジョン・キム氏は、「当社は1世代以上にわたりインド市場に深くコミットしており、その結果、世界の工作機械メーカーの中でもトップクラスの市場シェアを獲得してきた。今後も長期的にインドへの投資を継続していく」と述べた。さらに、「インドは明らかに世界的な製造大国となる可能性を秘めている。巨大で拡大を続ける国内市場、英語を話せる労働力、卓越したエンジニアリング人材、そして若い人口構成は、インドの長期的な競争力の基盤となっています」と付け加えた。

AIと製造業について、キム氏は次のようにコメントした。「AIがデジタル画面から物理世界へと拡大するにつれ、機械は不可欠な存在となる。この変革期の中心にあるのが工作機械であり、物理AIの中核プラットフォームとして機能します。ベンガルールは強力なソフトウェアエコシステムを有しており、物理AI時代における製造業をリードする独自の地位を確立している。だからこそ、私たちはベンガルールを選んだ。」

期待される効果

バンガロール工場は、工作機械業界の4つの主要バリューチェーン、すなわち研究開発、製造、サービス、トレーニングのすべてをサポートするように設計されている。工場ではまず、インド市場に特化した製品の開発・製造を行う。これには、人気の高い立形マシニングセンタSVMシリーズ、横形旋盤LYNXシリーズ、LEOシリーズなどが含まれる。将来的には、5軸加工機などのハイエンド機の生産も検討している。

研究開発センターは、韓国、ドイツ、中国にある既存の4つの研究機関、そしてアジア、ヨーロッパ、アメリカ大陸のテクニカルセンターに所属するソリューションスペシャリストと緊密に連携する。これらの機関が協力し、様々な業界のニーズに対応する製品、ソリューション、アプリケーションを開発する。工場に併設されるテクニカルセンターでは、お客様がテストカットを通して機械の性能を体感し、製造要件に最適な加工ソリューションを特定できるようになる。

サービスオフィス、修理工場、部品倉庫、DNアカデミーは、アフターサービスサポートの迅速性と対応力を向上させるとともに、フィールドサービスエンジニアリングの専門知識をさらに強化する。DN Solutionsは、顧客企業がダウンタイムを削減し、業務効率を向上させ、生産性を最大化できることを期待している。

サプライチェーンの現地化

サプライチェーン開発において、DN Solutionsは、韓国や中国から既存のサプライヤーを移転させるのではなく、インドのサプライヤーや中小零細企業(MSME)の育成に重点を置いた現地化戦略を推進している。同社は既に、技術協力や能力開発イニシアチブを通じて多くの地元のMSMEを支援しており、2027年には正式なサプライヤー育成プログラムを開始する予定。

現地化に関して、DN Solutionsは既に部品点数ベースで約80%を達成しており、今後5年間でほとんどの部品をインド国内で調達することを目指している。

スピンドル・アセンブリ(主軸ユニット)を除き、大型部品の機械加工、主要な機械加工部品、およびシャフト関連部品の現地化をすでに完了している」とキム氏は述べた。「私たちの目標は、国内で大きな価値を創出する、真に現地に根ざした製造エコシステムを構築することである。」

人材育成

今回の投資は、現地で多くの雇用機会を創出することも期待されている。DNソリューションズは現在、インドで240名を直接雇用しているが、サプライヤー、物流業者、サービスプロバイダーなどを含めた波及的な雇用効果は、その少なくとも2倍に上ると推定されている。

同社はこの1年間で約100名の新卒者を採用し、独自のトレーニングセンターを運営するとともに、1年間の人材育成プログラムを実施している。また、顧客、MSME(零細・中小企業)、および地元の教育機関と連携し、アプリケーションエンジニア、技術者、機械加工スペシャリストの育成も計画している。

「人材は講義だけで育つものではない」とキム氏は語った。「技術の進化に伴い、産業界では継続的なスキルアップやリスキリングが不可欠である。まずは500名の直接雇用から始め、顧客やMSME向けの職業訓練や地元教育機関との連携を通じて、より広範な人材パイプラインの構築に貢献していきたいと考えている。」

(Modern Manufacturing India 2026年9月)

◆ Hurco、会計 2026 年度第 3 四半期決算で黒字を計上

Hurco Companies, Inc. (Nasdaq: HURC) は、会計2026年度第3四半期(2026年7月31日終了)の決算を発表した。Hurcoの2026年度第3四半期の純利益は231万4,000ドル(希薄化後1株当たり利益0.35ドル)となり、前年同期の純損失369万3同ドル(希薄化後1株当たり損失0.58ドル)から黒字に転じた。2026年度の最初の9ヶ月間における純損失は352万6,000ドル(希薄化後1株当たり損失0.55ドル)で、前年同期の純損失1,207万6,000ドル(希薄化後1株当たり損失1.87ドル)と比較して損失額が縮小した。

2026年度第3四半期の売上高およびサービス料は4,728万9,000ドルとなり、前年同期比で148万3,000ドル(3%)増加した。なお、財務報告用に海外での売上高を米ドルに換算する際、2万ドル(1%未満)のマイナスの為替影響が含まれている。2026年度の最初の9ヶ月間における売上高およびサービス料は1億3,777万5,000ドルとなり、前年同期比で468万8,000ドル(4%)増加しました。これには、財務報告用に海外での売上高を米ドルに換算する際、314万5,000ドル(2%)のプラスの為替影響が含まれている。最高経営責任者(CEO)のグレッグ・ヴォロヴィッチ氏は次のように述べた。「前四半期には、景気後退局面において戦略的な価格設定と徹底したコスト管理を規律を持って実行してきた成果が出始め、黒字化に向けて前進している。そして今四半期、実際に黒字を達成した。当第3四半期の売上総利益率は、前年同期比で800ベースポイント(8.0ポイント)改善し28%となった。この改善は主に、2年以上前から開始した計画的なコスト管理、組立工程における固定費の吸収効率向上、米国およびアジア太平洋地域での機械販売台数の増加、そして世界的な5軸加工機や高性能機の販売構成比向上(顧客が当社の独自制御技術や自動化技術を高く評価していることの表れです)によるものである。関税の払い戻しも今年度の業績に寄与したが、収益性向上への最大の貢献要因は、当社の事業のファンダメンタルズ(基礎的条件)にあることが証明された。2026年度の最初の9ヶ月間における受注は前年同期比で24%増加し、世界すべての地域で改善が見られ、出荷額を上回る水準となった。」

以下の表は、2026年7月31日および2025年7月31日に終了した第3四半期および9ヶ月間における、地域別の純売上高およびサービス料を示している。

(単位：千ドル)

	Three Months Ended July 31,				Nine Months Ended July 31,			
	2026	2025	\$ Change	% Change	2026	2025	\$ Change	% Change
Americas	\$18,778	\$16,901	\$1,877	11%	\$56,174	\$50,370	\$5,804	12%
Europe	21,336	24,166	(2,830)	(12)%	61,697	67,388	(5,691)	(8)%
Asia Pacific	7,175	4,739	2,436	51%	19,904	15,329	4,575	30
Total	\$47,289	\$45,806	\$1,483	3%	\$137,775	\$133,087	\$4,688	4%

2026年度第3四半期の米州における売上高は、前年同期比で11%増加した。これは主に、Hurcoブランドの5軸加工機および大型・高性能立形マシニングセンタ、ならびにTakumiおよびMilltronicsブランドのツールルーム旋盤の出荷が増加したことによるものである。2026年度の最初の9ヶ月間における米州の売上高は、前年同期比で12%増加した。これは主に、Hurcoブランドの5軸加工機および大型・高性能立形マシニングセンタ、Takumiブランドの旋盤および立形マシニングセンタ、ならびにMilltronicsブランドのツールルーム旋盤の出荷が増加したことによるものである。

2026年度第3四半期の欧州における売上高は、前年同期比で12%減少した。なお、財務報告用に海外売上高を米ドルに換算する際、1%未満のプラスの為替影響が含まれている。2026年度の最初の9ヶ月間における欧州の売上高は、前年同期比で8%減少した。なお、財務報告用に海外売上高を米ドルに換算する際、5%のプラスの為替影響が含まれている。両期間における欧州売上高の減少は、主にHurcoブランドの機械、およびイタリアの完全子会社であるLCM Precision Technology S.r.l.（以下「LCM」）が製造する電気機械部品・付属品の出荷台数が減少したことによるものである。ただし、Takumiブランドの立形マシニングセンタの出荷台数増加や、ProCobots自動化ソリューションの売上増加が、これによる減少を一部相殺した。

2026年度第3四半期の受注額は5,136万8,000ドルとなり、2025年度の同期間と比較して1,037万2,000ドル(25%)増加した。なお、海外での受注額を米ドルに換算する際、26万ドル(1%未満)のマイナスの為替影響が含まれている。2026年度の最初の9ヶ月間の受注額は1億5,499万5,000ドルとなり、2025年度の同期間と比較して3,021万4,000ドル(24%)増加した。なお、海外での受注額を米ドルに換算する際、310万6,000ドル(2%)のプラスの為替影響が含まれている。

以下の表は、2026年および2025年7月31日を末日とする第3四半期および9ヶ月間における、地域別の新規受注額を示したものである。

(単位：千ドル)

	Three Months Ended July 31,				Nine Months Ended July 31,			
	2026	2025	\$ Change	% Change	2026	2025	\$ Change	% Change
Americas	\$21,287	\$15,557	\$5,730	37%	\$66,140	\$47,145	\$18,995	40%
Europe	21,401	20,274	1,127	6%	65,028	60,730	4,298	7%
Asia Pacific	8,680	5,165	3,515	68%	23,827	16,906	6,921	41%
Total	\$51,368	\$40,996	\$10,372	25%	\$154,995	\$124,781	\$30,214	24%

2026年度第3四半期および同年度の最初の9ヶ月間における米州での受注は、前年同期比でそれぞれ37%および40%増加した。この増加は主に、Hurcoブランドの5軸加工機や大型・高性能立形マシニングセンタ、Takumiブランドの旋盤および立形マシニングセンタ、ならびにMilltronicsブランドのツールルーム旋盤に対する需要の拡大によるものである。

欧州における2026年度第3四半期および同年度の最初の9ヶ月間の受注は、前年同期比でそれぞれ6%および7%増加した。これには、海外での受注を米ドルに換算する際の為替変動の影響が含まれており、その影響は第3四半期で1%未満のプラス、9ヶ月間では5%のプラスとなった。前年同期比での受注増は、主に英国におけるHurcoの高性能立形マシニングセンタや、LCMが製造する電気機械部品・付属品への需要拡大が牽引しましたが、ドイツおよびフランスにおけるHurco製機械への需要減少が一部相殺要因となった。

アジア太平洋地域における2026年度第3四半期および同年度の最初の9ヶ月間の受注は、前年同期比でそれぞれ68%および41%増加した。これには、海外での受注を米ドルに換算する際の為替変動の影響が含まれており、その影響は第3四半期で7%のマイナス、9ヶ月間では1%のマイナスとなった。前年同期比での受注増は、主にTakumi製機械および第三者向けに製造されたプライベートブランドの機械フレームに対する需要拡大によるものだが、中国におけるHurco製機械への需要減少が一部相殺要因となった。

2026年度第3四半期の売上総利益は1,318万3,000ドル(売上高の28%)となり、前年同期の911万2,000ドル(売上高の20%)から増加した。2026年度の最初の9ヶ月間における売上総利益は3,145万2,000ドル(売上高の23%)となり、前年同期の2,523万1,000ドル(売上高の19%)から増加した。売上総利益の前年同期比での増加は、主に機械の販売数量の増加、高性能機種の販売構成比の上昇、および2026年度第1四半期に実施した価格引き上げによるものであった。加えて、2026年度第3四半期および同年度の最初の9ヶ月間における売上総利益の改善には、米国税関・国境警備局(CBP)に対して申請した関税還付請求による影響も一部含まれている。

(Hurco Press Release 2026年9月4日)

4. 展示会情報



EMO MILANO 2027 PRESS CONFERENCE AT JIMTOF

日時:2026 年10 月26 日 (月) 15:30~16:30

会場:東京ビッグサイト 会議棟 605 会議室 [マップ](#)

使用言語:イタリア語・日本語 (同時通訳あり)

JIMTOF 2026の開催期間中、UCIMU-SISTEMI PER PRODURRE (イタリア工作機械・ロボット・オートメーション工業会) は、イタリア大使館貿易促進部の協力のもと、2027年10月4日から8日にイタリア・ミラノ見本市会場で開催される「EMO MILANO 2027」のプレスカンファレンス・プレゼンテーションを開催いたします。

「EMO MILANO 2027」は、金属加工技術分野における世界有数の展示会であり、切削・成形工作機械、ロボット、自動化システム、積層造形、デジタルソリューション、AIなど、最新の技術・イノベーションを幅広く紹介します。

今回のプレゼンテーションでは、イタリアおよび欧州の工作機械産業に関する最新の数値や予測が紹介され、業界を取り巻く国際的な状況についてご説明いたします。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

プログラム

● イタリア大使館貿易促進部部長・イタリア貿易促進機構 (ITA) 東京事務所長 ジャンパオロ・ブルーノ

● 一般社団法人 日本工作機械工業会 専務理事 柚原一夫

● 「国際市場におけるイタリア・ヨーロッパの工作機械・ロボット・オートメーション産業」

ダヴィデ・デッラ・ベッラ UCIMU (イタリア工作機械・ロボット・オートメーション工業会) ゼネラルマネージャー

● 「EMO MILANO 2027のご紹介」

ジュゼッペ・シェウージ EMO MILANO 2027 ジェネラル・コミッショナー

質疑応答

17:00~ レセプション (会場: アル・ポルト (AL PORTO) 東京ビッグサイト 会議棟8階)

お問い合わせはイタリア
大使館貿易促進部:
tokyo@ice.it

【参加申込】参加をご希望の方は、下記の申込フォームより事前にお申し込みください。

【申込フォーム】 [HTTPS://FORMS.GLE/TVDHJVKSXSBU5XBY6](https://forms.gle/TVDHJVKSXSBU5XBY6)



◆5. その他

◆ユーザー産業情報

英アイオニティ、ロンドン初の都市型 EV 急速充電拠点を開設

欧州の高出力EV急速充電網を運営する英アイオニティ (IONITY)は19日、ロンドン初となる都市型急速充電拠点をグリニッジ・ショッピング・パークに開設したと発表した。同拠点は最大400キロワットの出力に対応する急速充電器12基を備え、高速道路沿いを中心に整備してきた同社の充電網を都市部へ拡大する取り組みの第一弾となる。

開設を記念し、21日には24時間限定の無料充電企画「フリー・フライデー」を専用アプリを通じて実施する。同拠点はO2アリーナやグリニッジ半島に近接し、南東ロンドンを行き来する地元住民や配車サービスの運転手らの利用を見込む。同社は配車大手ウーバー (Uber) との提携も拡大しており、割安な充電料金の提供を通じて実際の稼働データを収集し、今後の拠点選定に生かす方針だ。

アイオニティは今年2月、バーミンガムのアストン地区で英国初の都市型拠点を開設しており、ロンドンのほかバーミンガム、マンチェスター、グラスゴー、エディンバラでも都市型拠点の整備を進めている。2030年までに全充電網の約3割を都市部に配置する計画で、高速道路網中心の事業戦略の転換を進めている。

(IONITY 8月19日付)

<https://www.ionity.eu/ionity/press-releases/ionity-opens-its-first-urban-charging-site-in-london-with-free-charging-on-21-august>

独フラウンホーファー、核融合発電の産業基盤構築へ「産業デー 2.0」開催へ

独研究機関フラウンホーファー協会は18日、核融合発電の産業サプライチェーン構築に向けた「フラウンホーファー核融合産業デー2.0」を10月15、16の両日にアーヘンで開催すると発表した。産業界、研究機関、政府、コンサルティング、エネルギー・金融部門の関係者が一堂に会し、核融合発電の実用化に向けた技術的課題を議論する。

ドイツ連邦政府は5月、商用核融合発電所の実現に向けた工程表「フュージョン2040」を公表しており、今期の議会任期中だけで24億ユーロの予算を投じる方針を示している(同金額はドイツ連邦政府の公表資料に基づき、フラウンホーファー協会の当該プレスリリース自体には明記されていない)。核融合発電は再生可能エネルギーを補完する脱炭素電源として期待され、世界全体で数百規模の発電所が新設される市場になるとみられている。

フラウンホーファーは、ドイツが光学・フォトンクス分野の強みや産学連携の実績を生かし、核融合分野で主導的役割を担えると位置付ける。今回のイベントでは磁場閉じ込め方式とレーザー方式の双方を対象に、材料技術や燃料サイクルに関する情報交換を進め、産業界の投資リスクを軽減するための技術移転を後押しする。2024年にミュンヘンで開いた第1回に続く開催となる。

(Fraunhofer-Gesellschaft 8月18日付)

<https://www.ilt.fraunhofer.de/en/press/press-releases/2026/8-18-fraunhofer-fusion-industry-day-2-0.html>

英スコティッシュパワーとマスダール、洋上風力「イーストアングリア III」で基礎設置完了

英再生可能エネルギー大手スコティッシュパワー・リニューアブルズ(ScottishPower Renewables)とアラブ首長国連邦(UAE)のマスダール(Masdar)は17日、英サフォーク沖で建設中の洋上風力発電所「イーストアングリア III」で基礎の設置を完了したと発表した。総事業費40億ポンド規模のプロジェクトで、95基すべての基礎杭と移行ピースの設置が終わり、風車の設置作業に移行した。

基礎杭(モノパイル)は重さ1,200~1,800トン、高さ67~84メートルに達し、欧州でジャッキアップ式作業船から設置された基礎としては最大級という。移行ピースも95基すべて完了した。同発電所はシーメンス・ガメサ(Siemens Gamesa)製の14メガワット超の風車95基で構成され、2026年内の全面稼働を目指す。稼働後は最大130万戸分の家庭に相当する1.4ギガワットのクリーン電力を供給する見通し。

本プロジェクトは英国内サプライチェーンに約20億ポンドを投資しており、風車翼はシーメンス・ガメサの英ハル工場で製造されている。マスダールとイベルドローラ(Iberdrola)が結ぶ150億ユーロ規模の戦略提携の一環で、スコティッシュパワーとしては英国初の50対50の洋上風力合弁事業となる。建設期間中は2,300人分の雇用を創出しているという。

(Energy Global 8月17日付)

<https://www.energyglobal.com/wind/17082026/scottishpower-and-masdar-mark-engineering-milestone-at-east-anglia-three-offshore-wind-farm/>

独ノルデックス、下ザクセン州の市民風力発電向けに風車 12 基を受注

独風力タービン大手ノルデックスは13日、独下ザクセン州の市民風力発電プロジェクト向けに風車12基、総出力約82メガワットの供給・設置契約をEFGエナジー・ファーマーミング・グループ(EFG Energy Farming Group)から受注したと発表した。両契約にはそれぞれ20年間のプレミアム・サービス契約が付随する。

受注したのは、フェヒタ郡の「エルルテ・エンデル」プロジェクトと、オスナブリュック郡の「バート・エッセン」プロジェクト群の2案件。エルルテ・エンデルでは、ハブ高179メートルのハイブリッドタワーにN175/6.Xタービン5基を設置する。バート・エッセンでは同型式5基に加え、ハブ高164メートルのN163/6.Xタービン2基を含む計7基を設置し、リパワリング事業を含む4プロジェクトで構成される。

インフラ整備工事は2026年内に着手し、タービン設置は2027年、稼働開始は2028年春を見込む。バート・エッセンを拠点とするEFGエナジー・ファーマーミング・グループは、地権者や地域の市民風力会社と連携しながら風力事業を開発する事業モデルを展開しており、両プロジェクトも稼働後は地権者と地域の市民風力会社が運営を担う。

(ノルデックス(Nordex SE) 8月13日付)

<https://www.nordex-online.com/en/2026/08/nordex-group-receives-orders-totaling-82-mw-from-efg-energy-farming-group-in-lower-saxony-germany/>

デンマーク CIP、欧州最大級の蓄電池「コールバーン 1」が商業運転開始 (英)

デンマークの再生可能エネルギー投資会社コペンハーゲン・インフラストラクチャー・パートナーズ(CIP)は12日、旗艦ファンド「コペンハーゲン・インフラストラクチャーIV」を通じて開発した大型蓄電池システム「コールバーン1」が商業運転を開始したと発表した。出力500メガワット、2時間持続の系統接続型リチウムイオン電池で、英スコットランドのサウス・ラナークシャーに立地し、欧州で稼働中の蓄電池としては最大規模になるという。

コールバーン1は、CIPがスコットランドで開発する送電網直結型の蓄電池3案件の第1弾。姉妹案件のコールバーン2とデヴィラを合わせると、合計1.5ギガワットの出力と3ギガワット時の容量を提供する見通しで、英国の電力系統の柔軟性と再生可能エネルギーの統合を後押しする。電池はカナディアン・ソーラー(Canadian Solar)の蓄電事業部門「eストレージ」が供給した。

収益面では、電力会社SSEとの10年間の最適化契約に加え、300メガワット分の15年間の容量市場契約、75メガワット分の7年間契約を確保している。建設は2023年11月に開始し、CIPは2025年4月に事業の50%を保険大手アクサIMオルツ(Axa IM Alts)に譲渡した。CIPのニシャル・アガルワル・パートナーは「欧州における蓄電事業の展開能力を示す重要な節目だ」と述べた。

(Copenhagen Infrastructure Partners 8月12日付)

<https://www.globenewswire.com/news-release/2026/08/12/3343366/0/en/copenhagen-infrastructure-partners-large-scale-bess-project-coalburn-1-reaches-commercial-operation.html>

デンマーク Velatir、企業の AI 利用管理基盤で 500 万ユーロを調達

デンマークのAIインフラ企業ベラティア(Velatir)は20日、シード資金として500万ユーロを調達したと発表した。調達はスピントップ・ベンチャーズ(Spintop Ventures)と既存投資家アグリー・ダックリング・ベンチャーズ(Ugly Duckling Ventures)が共同で主導し、ノルスケン・エボルブ(Norrsken Evolve)のほか、業務自動化ツールn8nの創業者ヤン・オーバーハウザー氏や、ユニバーサル・ロボッツ(Universal Robots)およびモバイル・インダストリアル・ロボッツ(Mobile Industrial Robots)の元経営陣トーマス・ヴィスティ氏らエンジェル投資家が参加した。デンマーク輸出投資基金(EIFO)もマッチング融資の形で加わった。

オデンセを拠点とするベラティアは、デンマーク軍情報機関で14年間勤務した経験を持つミカエル・セアンセン氏らが2025年に共同設立した。企業内で使われる生成AIツールやAIエージェント、ベンダー、デバイスの利用状況を可視化し、セキュリティ・コンプライアンス上のガバナンスを一元管理するプラットフォームを提供する。基盤は米国の大手クラウド事業者依存せず、全面的に欧州所有のインフラ上で稼働させており、データ主権の確保を事業の核に据えている。

プレシード調達と正式なサービス開始からわずか半年でデンマーク、スウェーデン、ノルウェー、オランダ、フランス、英国の6カ国に80社の顧客を獲得し、年間経常収益は100万ドルに迫るという。今回の調達は交渉開始からわずか2週間で完了した。

(Tech.eu 8月20日付)

<https://tech.eu/2026/08/20/velatir-secures-eur5m-seed-funding-to-expand-its-ai-infrastructure-across-europe/>

仏タレスとデンマーク Systematic、防空システムの相互運用で戦略提携

仏防衛大手タレス(Thales)とデンマークのソフトウェア企業システマティック(Systematic)は19日、デンマーク国防調達・兵站庁(DALO)主催の「DALOインダストリー・デイズ」(デンマーク・ヘアニング)で、デンマーク軍の防空能力強化に向けた戦略提携を発表した。システマティックの指揮統制(C2)ソフトウェアとタレスの実戦実績を持つ防空システムを組み合わせ、地対空ミサイル防衛システム「SAMP/T NG」を含む各種防空システム間の相互運用性を高める。

両社の提携は、北大西洋条約機構(NATO)の航空指揮統制(Air C2)および地上配備型防空ミサイル防衛(SBAMD)プログラムの実現に資するもので、既存および将来のデンマークの防空システム間の連携強化を主眼に置く。新たな兵器システムの開発ではなく、異なる防空資産間の情報連携と運用調整を改善する点が特徴という。

タレスのデンマーク・アイルランド・アイスランド・バルト担当カンントリーディレクター、マルティン・セーガード氏は「システマティックとの提携はデンマークへの長期的コミットメントを反映するものだ」と述べた。両社はデンマーク国防調達・兵站庁を支援し、統合的な防空能力の実現を目指すとともに、デンマーク国内の産業基盤強化や将来的な輸出機会の創出にもつなげる方針。

(Thales Group 8月19日付)

<https://www.thalesgroup.com/en/news-centre/press-releases/thales-and-systematic-partner-strengthen-denmarks-air-defence>

英シングュラー・フォトニクス、次世代 SPAD イメージセンサーで 215 万ドル調達

英エディンバラ大学発のファブレス半導体企業シングュラー・フォトニクス(Singular Photonics)は19日、次世代の単一光子アバランシェダイオード(SPAD)方式イメージセンサーの開発に向け、215万ドルの資金調達を完了したと発表した。応募超過となった今回のラウンドはACFインベスターズ(ACF Investors)が主導し、レン・キャピタル(Wren Capital)、ケンブリッジ・エンジェルズ(Cambridge Angels)、スコティッシュ・エンタープライズ(Scottish Enterprise)、クオインタム・エクスポネンシャル(Quantum Exponential)、オールド・カレッジ・キャピタル(Old College Capital)が参加した。同社は英半導体大手アーム(Arm)の元最高技術責任者(CTO)ディペシュ・パテル氏を新たに取締役に迎えたことも公表した。

SPADは、光の強さを計測する従来のイメージセンサーと異なり、個々の光子を検出・計時できる技術。同社はこれにオンチップ演算機能を組み合わせ、光を検知した時点でデータを処理できるセンサーを開発しており、マシンビジョンや産業オートメーション、フィジカルAI、科学研究、医療画像といった分野への応用を見込む。既存製品群「アンダルタ(Andarta)」「シロナ(Sirona)」は既に商用販売中で、計測機器大手レニショー(Renishaw)との協業を含む顧客基盤の拡大により、2026年の売上高は既に2025年通期実績の2倍に達したという。

同社はエディンバラ大学からのスピンオフ企業で、CMOSチップ上に世界初のSPADイメージセンサーを設計し、その技術がスマートフォン170機種に採用されてきたロバート・ヘンダーソン教授らが創業した。調達資金は次世代センサーの試作、第4製品の投入、約10人体制のエンジニアリング人員の倍増以上への拡充に充てる。

(Tech.eu 8月19日付)

<https://tech.eu/2026/08/19/singular-photonics-lands-215m-to-develop-next-generation-image-sensors/>

リトアニア LITILIT、フェムト秒レーザーの量産化に 800 万ユーロ調達

リトアニアの深層技術企業LITILIT（リティリット）は18日、フェムト秒レーザーの産業向け量産化を目指すモジュール式プラットフォーム「フェモダ(FEMODA)」の開発に向け、リトアニア国家開発銀行ILTEから800万ユーロの融資を確保したと発表した。プロジェクトの総事業費は1,000万ユーロで、残る200万ユーロはリティリット自身が拠出する。新技術の商用化は2029年後半を見込む。

ビリニウスを拠点とする同社は、独自の特許技術により高出力フェムト秒レーザーシステムの産業ラインへの統合を簡素化する装置を手掛ける。フェモダは、10～20の独立したビームチャンネルに分割した平均光出力最大1,000ワットの実現を目指し、それぞれのチャンネルが生産ライン上の異なる加工地点にフェムト秒パルス照射できる構成とする。フェムト秒レーザーはこれまで高付加価値・小規模部品の加工に用途が限られてきたが、同社は金属工具の量産や航空機・自動車のボディなど大型面への特殊コーティング形成といった大規模産業分野への応用拡大を目指す。

リティリットは6月にビリニウスで大規模なレーザー工場の建設に着手しており、今秋の稼働開始で年間3,000台のフェムト秒レーザー生産を目標とする。生産能力ベースでは世界最大級のフェムト秒レーザー工場になるという。同社は自動車、航空宇宙、電子機器、半導体製造分野を主要な応用先と位置付けている。

(Tech.eu 8月18日付)

<https://tech.eu/2026/08/18/lithuanias-litilit-lands-eur8m-to-take-femtosecond-lasers-into-mass-manufacturing/>

独ドイツテレコム、マッコーリーからポーランド光回線大手 2 社を約 10 億ユーロで買収

独通信大手ドイツテレコム(Deutsche Telekom)は17日、傘下のポーランド事業会社Tモバイル・ポルスカ(T-Mobile Polska)を通じ、豪資産運用大手マッコーリー・アセット・マネジメント(Macquarie Asset Management)が保有するポーランドの光ファイバー網事業者ファイバーホスト(Fiberhost)と、ブロードバンド・テレビ事業者イネア(Inea)を、企業価値ベースで約10億ユーロで買収すると発表した。買収対象はマッコーリー・ヨーロッパ・インフラストラクチャー・ファンド5が保有する持ち分と少数株主持ち分の全て。

買収により、Tモバイル・ポルスカは既存の5G網や急成長中の固定ブロードバンド事業に加え、ファイバーホストが展開する140万戸超をカバーする開放型光ファイバー網と、イネアが抱える30万件超の顧客基盤を取り込む。移動体通信専業から固定・移動体を融合した総合通信事業者への転換を加速させる狙いがある。取引完了は2026年末を見込み、ポーランド競争当局の通常審査を経る必要がある。

ドイツテレコムとTモバイル・ポルスカは、両事業の統合により固定インフラを既に保有する競合他社に対抗できる高品質な融合型サービスを提供できるとしている。マッコーリー・アセット・マネジメントのコード・フォン・レビンスキ・マネージングディレクターは、8年間にわたりファイバーホストとイネアの経営陣を支援し、ポーランド有数の光ファイバーインフラ基盤の構築に貢献してきたと振り返った。ファイバーホストは買収後も、国内の全ての通信事業者に対して透明かつ非差別的な形で光ファイバー網へのアクセスを提供し続けるとしている。

(Deutsche Telekom 8月17日付)

<https://www.telekom.com/en/media/media-information/archive/deutsche-telekom-to-acquire-fiberhost-and-inea-1106688>

瑞 SweGaN、GaN 半導体基板の量産拡大へ 1,209 万ユーロ調達

スウェーデンの半導体材料企業SweGaN（スウェガン）は17日、窒化ガリウム・オン・炭化ケイ素（GaN-on-SiC）エピタキシャルウエハーの量産体制拡大に向け、シリーズBラウンドで1,209万ユーロを調達したと発表した。調達はスウェーデンの投資会社ティスベ（Thisbe AB、ヴァレンベリ・インベストメンツ系列）とデンマークのベンチャーキャピタル、ノース・ベンチャーズ（North Ventures）が主導し、既存株主も参加した。企業価値が前回調達時を上回る形での調達となり、複数の英語媒体の報道によれば累計調達額は3,540万ユーロ（約4,100万ドル）に達したという。

リンショープینگ大学のエリック・ヤンゼン教授らの研究成果を基に2014年に設立された同社は、独自の結晶成長技術「クアンファイン（QuanFINE）」を用い、通信、衛星、防衛分野向けの高周波（RF）・パワーエレクトロニクス用GaN半導体基板を顧客仕様で製造している。同社は今回の調達について、顧客基盤の拡大や新規パートナーシップの締結、主要顧客との認証取得といった実績を評価した結果だとしている。

調達資金は生産能力の拡大に加え、国際営業活動の強化、専門人材の採用、次世代GaN-on-SiC材料の研究開発に充てる計画。GaN半導体は高周波・高出力での動作とエネルギー効率の両立が求められる用途で需要が拡大しており、同社は欧州域内の設計・製造拠点を軸に事業を伸ばす方針を示した。

（EU-Startups 8月17日付）

<https://www.eu-startups.com/2026/08/swedens-swegan-raises-e12-1-million-to-scale-gallium-nitride-on-silicon-carbide-epitaxial-wafer-production/>

米ウーバーと中国 Pony.ai、欧州でロボタクシー 2,000 台配備へ提携拡大

米配車大手ウーバー・テクノロジーズ（Uber Technologies）と中国の自動運転技術企業Pony.ai（ポニーエーアイ）は14日、欧州における戦略提携の拡大を発表し、2,000台超の自動運転タクシー（ロボタクシー）を配備する計画を明らかにした。両社は今年3月、クロアチアの首都ザグレブで欧州初の商用ロボタクシーサービスを地元企業ヴェルネ（Verne）と共同で開始しており、今回の提携拡大により欧州の新たな4都市へサービスを広げる。対象都市や具体的な展開時期は明らかにしていない。

提携ではPony.aiがレベル4（完全自動運転）の技術と車両運用のノウハウを提供し、ウーバーが配車予約・決済・顧客対応を担うプラットフォームを提供する。車両の保守・洗浄・充電といった日常管理業務は各市場の地元事業者が担当し、車両の保有形態も市場によって異なるという。展開する車両はPony.aiの第7世代（Gen-7）モデルで、9基のライダー（LiDAR）、14台のカメラ、4基のミリ波レーダーなど計34個のセンサーを搭載する。

両社の提携は2025年5月に始まり、当初は中東市場を軸としていたが、その後欧州にも拡大した。ザグレブでの運用実績は、道幅の狭い旧市街の街路や地域特有の交通規則など、欧州特有の走行環境への適応力を検証する材料になったとしている。今回の提携拡大では中東での展開計画も併せて示された。

（ウーバー・テクノロジーズ（Uber Technologies） 8月14日付）

<https://investor.uber.com/news-events/news/press-release-details/2026/Pony-ai-and-Uber-Expand-Partnership-to-Deploy-Over-2000-Robotaxis-in-Europe/default.aspx>

独コーリアクティブ、CO₂ 鉱物化技術で低炭素セメント材料を量産へ

独クリーンテック新興企業コーリアクティブ(Co-reactive GmbH)は、回収した二酸化炭素(CO₂)とオリビンや製鋼スラグなどのケイ酸塩鉱物を反応させ、セメント代替材料「CO-SCM」を連続生産する独自の鉱物化技術を開発している。同社はアーヘン工科大学(RWTH Aachen)発のスピンオフで、本社をエルクラート(Erkrath)に置く。CO-SCMは材料1トン当たり約330キログラムのCO₂を永久に固定するとされ、セメントに含まれるクリンカーの使用量を大幅に削減しながら、コンクリートの強度や耐久性を高める効果があるという。既存設備にそのまま組み込める「ドロップイン型」技術として設計されており、大掛かりな生産ラインの転換を必要としない点も特徴だ。

同社は2026年1月に独ハイテク創業者基金(HTGF)などから650万ユーロのシード資金を調達しており、エルクラートの拠点で年間約1,000トン規模の連続生産デモプラントを稼働させている。今後は業界パートナーと共同で、年産数万トン規模の初号機(FOAK)プラントの建設を2027年以降に進め、セメント・鉄鋼業界で発生するCO₂の現地での鉱物化を目指す方針だ。

世界のセメント生産はCO₂排出量全体の約8%を占めるとされ、炭素価格の上昇や高炉スラグ・フライアッシュといった従来の混和材の供給逼迫を背景に、同社の技術は需給両面の課題に応える解決策として注目されている。

(cleanthinking.de 9月6日付)

<https://www.cleanthinking.de/co2-mineralisierung-erklaert/>

独ユニパー、ヴィルヘルムスハーフェン水素輸入ターミナルが次段階へ

独エネルギー大手ユニパー(Uniper SE)は、北部ヴィルヘルムスハーフェンで計画する水素輸入ターミナルについて、需要家を募る「オープンシーズン」の第1段階(関心表明フェーズ)を完了したと発表した。6月15日を期限に募集した容量予約について、事業を次の開発段階に進めるのに十分な申し込みが集まったとしている。第2段階ではターミナル利用契約の骨子を参加企業と共同で策定し、契約締結によって拘束力のある容量予約が確定する見通しだ。

同ターミナルはアンモニアの形で水素を輸入し、現地の大型クラッカー設備でアンモニアを水素と窒素に分解した上で、ドイツの水素幹線網(コアネットワーク)に供給する計画。年間輸入能力は最大260万トンのアンモニアで、水素換算では約35万トンに相当する。市場から最大容量までの拡張需要が確認された場合、ユニパーは追加のオープンシーズンを実施する可能性があるという。

同ターミナルは、旧石炭火力発電所跡地で進める大規模プロジェクト「グリーン・ヴィルヘルムスハーフェン」の一部。プロジェクトには最大出力1ギガワットを見込む電解槽設備も含まれ、稼働時には年間約10万トンの水素を現地生産する計画で、2020年代末までの稼働開始を目指す。ヴィルヘルムスハーフェンはドイツ北海沿岸で唯一、大型タンカーが常時入港できる深水港であり、国内最大の水素貯蔵用岩塩キャバンフィールド(エッツェル)にも接続している。

(Uniper SE 9月4日付)

<https://h2-news.de/wirtschaft-unternehmen/wasserstoff-importterminal-wilhelmshaven-startet-in-die-naechste-entwicklungsphase/>

米 P2H2、アントワープ・ブルージュ港で AEM 電解槽の設置開始

米水素技術企業パワー・トゥ・ハイドロジェン(Power to Hydrogen、P2H2)は、ベルギーのアントワープ・ブルージュ港に出力0.5メガワットのアニオン交換膜(AEM)電解槽システムを納入し、設置作業を開始したと発表した。稼働開始は9月を予定する。同社の「Mクラス」ハイブリッドAEM電解槽としては商業ベースで初の導入事例で、250キロワットのスタックモジュールを採用しており、この規模のスタックを用いた世界初のプロジェクトだとしている。

AEM技術は、PEM(プロトン交換膜)電解槽で使われる高価な貴金属の代わりに、銅やニッケルといった比較的安価な材料を用いる点が特徴。同社によれば、出力性能とあわせ、設備投資(CAPEX)を同等出力のPEMシステムと比べて最大65%抑えられるという。負荷変動への応答時間は50ミリ秒未満と動的運転に対応し、圧縮に要するエネルギーの低減にもつながるとしている。

同プロジェクトは、アメリカン・エレクトリック・パワー(American Electric Power)や独エーオン(E.ON)などエネルギー各社が支える技術革新プログラム「フリー・エレクトロニクス(Free Electrons)」の支援を受ける。生産した水素は、まず地域の産業ガス・水素トラック事業者ホルトハウゼン・クリーン・テクノロジー(Holthausen Clean Technology)向けに供給される計画。P2H2のポール・マター最高経営責任者(CEO)は、同プロジェクトを欧州全域での展開拡大に向けたひな型と位置付けている。

(Power to Hydrogen 9月3日付)

<https://h2-news.de/wirtschaft-unternehmen/installation-von-aem-elektrolyseursystem-im-hafen-antwerpen-bruegge-gestartet/>

スウェーデン・ワレニウス、船に翼帆技術「オーシャンバード」を採用

スウェーデンの海運大手ワレニウス・マリン(Wallenius Marine)は、自動車運搬船(PCTC)「ウェイ・フォワード(Way Forward)」に、翼帆技術を手掛けるオーシャンバード(Oceanbird)製の硬翼帆2基を搭載すると発表した。設置は2027年を予定しており、自社船隊として初めて風力推進を商用導入する事例となる。同船の荷主は独フォルクスワーゲン・コンツェルンロジスティク(Volkswagen Konzernlogistik)。

ウェイ・フォワードは液体・気体双方の燃料(バイオ燃料を含む)に対応するデュアルフューエル推進を搭載し、船体設計を最適化することでエネルギー消費を抑えた船舶で、炭素強度指標(CII)で最高評価の「A」格付けを既に取得している。搭載する「ウィング560」は高さ46メートル、幅14メートルの硬翼帆で、油圧により傾斜角を調整できる。単独搭載時で外洋の好条件下では主機燃費を7~10%抑制でき、2基を最適な航路制御と組み合わせれば、北大西洋航路で最大18%の燃料削減効果が見込めるといふ。

オーシャンバードは2021年に設立されたワレニウス・ラインズ(Wallenius Lines)と産業機器大手アルファ・ラバル(Alfa Laval)の合併会社。ワレニウス・マリンのヨハン・マットソン最高経営責任者(CEO)は「風力推進は今後の海運で重要な役割を担うと確信している」と述べ、実船での運航データを今後の船舶設計や日常運航への統合に生かす考えを示した。

(Wallenius Marine/cleanthinking.de 9月2日付)

<https://www.cleanthinking.de/wallenius-oceanbird-wing-segel-way-forward/>

独ジーメンス・エナジー、ハンブルク電解槽の全モジュール納入完了

独ジーメンス・エナジー(Siemens Energy)は、ハンブルク市モーアブルク地区で建設中の「ハンブルク・グリーン水素ハブ(HGHH)」向けに、出力100メガワットの電解槽を構成する6基の最終モジュールを納入したと明らかにした。これにより、同社が受注した全モジュールの引き渡し完了した。

HGHHは、旧石炭火力発電所跡地で資産運用会社ルクスカラ(Luxcara、出資比率74.9%)とハンブルガー・エネルギーヴェルケ(Hamburger Energiewerke、同25.1%)が共同で進めるプロジェクト。電解槽はプロトン交換膜(PEM)方式を採用し、変動する再生可能エネルギーの供給に柔軟に対応できる点が特徴とされる。スタック(電解槽の中核部品)はジーメンス・エナジーがベルリンに新設したギガファクトリーで製造されている。

同プロジェクトは欧州共通利益重要プロジェクト(IPCEI)に認定されており、連邦政府とハンブルク市から合計1億5,400万ユーロ超の助成を受ける。2025年12月には起工式が行われ、建設工事は既に基礎工事から上部構造の建設段階に入っている。商業運転は2027年後半の開始を予定し、稼働後は年間約1万トンの水素を生産する計画。ジーメンス・エナジーとは10年間の保守契約も締結しており、両社は長期的なパートナーシップを構築するとしている。

(Siemens Energy/h2-news.de 9月2日付)

<https://h2-news.de/wirtschaft-unternehmen/hamburg-letzte-module-fuer-100-mw-elektrolyseur-eingetroffen/>

独 EKPO と瑞アコーディス、燃料電池スタックを 40 トントラックに実装

独燃料電池メーカーEKPOフューエルセル・テクノロジーズ(EKPO Fuel Cell Technologies)と、スイスのデジタルエンジニアリング企業アコーディス(Akkodis、アデコグループ傘下)は、EKPOが開発した燃料電池スタック「NM20」を実際の走行条件下で試験する計画を発表した。アコーディスが燃料電池駆動のパワートレインの開発・組み立てと、総重量40トンの水素トラックへの統合を担当する。

デモンストレーション車両では、単一のNM20スタックのみで駆動する「1スタック・1システム」構成を採用し、最大出力360キロワット、効率最大61%を達成するという。両社は、複雑な複数スタック構成を用いなくても高出力な燃料電池システムを実現できることを示す狙いがあるとしている。試験車両は今後、物流企業の実運用に投入され、走行データを収集する計画。

EKPOにとって同プロジェクトは、スタック・補機類・制御システム・熱マネジメント・高電圧アーキテクチャ間の相互作用を開発の早い段階で見極め、最適化するシステムエンジニアリング手法の重要な一環と位置付けられている。EKPOのシュテファン・ドヴェンガー(Stefan Dwenger)最高経営責任者は、NM20は高出力・高効率を要する重量物輸送向けに特化して開発したスタックだと説明し、実走行データを今後の量産化に向けた技術改良に役立てたいとの考えを示した。

(EKPO Fuel Cell Technologies/electrive.net 8月27日付)

<https://www.electrive.net/2026/08/27/ekpo-und-akkodis-verbauen-neuartiges-bz-stack-in-40-tonner/>

奥 OMV ペトロム、緑の水素生産能力を 55 メガワットに拡大

オーストリア・エネルギー大手OMVの子会社で、南東欧最大の統合エネルギー企業であるOMVペトロム(OMV Petrom)は、ルーマニア・ペトロブラジ製油所における第2期電解槽プロジェクトについて、出力35メガワット分の電解モジュール7基すべての納入が完了したと発表した。既存の20メガワット設備と合わせ、同製油所の緑の水素生産能力は合計55メガワットに達した。

新設の35メガワット設備は、独ノイマン・アンド・エッサー(Neuman & Esser)製の5メガワット級電解モジュール7基で構成され、過去2カ月かけて現地に納入・統合作業が進められた。建設工事や機器の組み立てはクラフトアンラーゲン・ルーマニア(Kraftanlagen Romania)が地元業者と協力して手掛けている。同プロジェクトはルーマニアの国家復興・強靱化計画(PNRR)から約2,900万ユーロの無償融資を受けている。

生産される緑の水素は、精製工程のほか、持続可能な航空燃料(SAF)や水素化植物油(HVO)の製造に活用される。同社は年産25万トン規模のSAF・HVOプラントの建設も進めており、稼働すれば南東欧初の大規模な持続可能燃料生産者になるとしている。ラドゥ・カプラウ取締役会メンバー(精製・マーケティング担当)は、55メガワット到達を製油所にとって重要な一步と位置付けた。

(OMV Petrom 8月28日付)

https://m.bvb.ro/infocont/infocont26/SNP_20260828084308_OMV-Petrom-expands-green-hydrogen-production-capacity.pdf

韓国エコプロ BM、ハンガリー工場を高ニッケル NCM 生産に転換

韓国の電池材料メーカー、エコプロBM(EcoPro BM)は、ハンガリー・デブレツェンの正極材工場について、既存のNCA(ニッケル・コバルト・アルミニウム系)専用ラインを改修し、NCM(ニッケル・コバルト・マンガン系)材料も生産できるようにすると発表した。投資額は約400億ウォン(約25億円)で、必要な設備は既に発注済みという。

同社は2025年末の工場開所時点で、デブレツェンで高ニッケルのNCAとNCM双方の正極材を生産する計画を示していたが、今回の投資により、具体的な顧客案件としてこの計画が実現する形となった。2027年第4四半期以降、ニッケル含有率90%超の材料を欧州の高級車メーカー1社に供給する予定で、供給先企業名は明らかにされていないが、デブレツェンには独BMWの工場も立地している。

同工場は年間生産能力5

4,000トンの3本のラインを備え、電気自動車約60万台分の電池に相当する量とされる。6月に稼働した第1ラインに続き、9月には第2ラインが立ち上がる見通しで、2026年の生産量は約1万トン、2027年には3万トンを見込む。約44万平方メートルの敷地には、リチウム加工や産業ガス製造を手掛けるエコプロ・グループ各社の拠点も集積しており、欧州の電池サプライチェーンの一大拠点として位置付けられている。

(EcoPro BM/electrive.net 8月24日付)

<https://www.electrive.net/2026/08/24/ecopro-bm-ruestet-ungarn-werk-fuer-ncm-um/>

独アジャイル・ロボティクス、「フィジカル AI」の産業実装を披露

独ミュンヘンのロボットメーカー、アジャイル・ロボティクス(Agile Robots SE)と、その子会社フランカ・ロボティクス(Franka Robotics)は、8月にスイス・チューリッヒとドイツ・ブレーメンで開催された欧州の主要イベントで、実世界に「フィジカルAI」を導入する取り組みを相次いで披露した。

チューリッヒの展示会「オール・アバウト・オートメーション」(8月26～27日)では、300社が出展する中、アジャイル・ロボティクスが力覚制御式組み立てロボット「ディアナ7(Diana 7)」と、柔軟な溶接作業に対応するロボット「トール12(Thor 12)」を紹介した。ディアナ7は全7関節にトルクセンサーを備え、エンジンヘッドの挿入作業でリアルタイムに力を監視し、位置決めの確認と部品損傷リスクの低減を両立する。トール12はドラッグ・アンド・ドロップ操作とローコード制御により、隅肉・垂直・傾斜など多様な溶接経路を柔軟に設定でき、最小1ミリメートルの隙間でも安定した溶接が可能という。

ブレーメンでは、国際人工知能学会「IJCAI-ECAI 2026

(8月15～21日)にシルバースポンサーとして参加したフランカ・ロボティクスが、遠隔操作装置「フランカ・ジェロ・デュオ」を用いて双腕ロボット「FR3デュオ」を操作し、両手動作の学習データを収集するプラットフォーム「LABS」を実演。人間の熟練動作をAIの学習用データに変換する手法を示した。

(Agile Robots SE/Franka Robotics 9月2日付)

<https://www.thailand-business-news.com/pr-news/agile-robots-brings-physical-ai-into-the-real-world-from-industrial-automation-to-robot-training-data>

独 ZSW とシュトゥットガルト市、AI で電解槽の運転を最適化

独バーデン・ヴュルテンベルク州立太陽エネルギー・水素研究センター(ZSW)とシュトゥットガルト市公社(Stadtwerke Stuttgart, SWS)は、シュトゥットガルト港の「グリーン水素ハブ・シュトゥットガルト(GH2S)」にある4基の電解槽の運転を最適化する、人工知能(AI)活用のソフトウェアを共同開発する連携事業「SCH2EDULIZER」を開始した。事業期間は2年間で、州経済省の助成プログラム「インベストBW」の支援を受ける。

開発するソフトウェアは、電力市場の最新の価格動向や規制要件を踏まえた最適化手法を用い、再生可能エネルギー由来の電力が市場で安価に調達できるタイミングに合わせて高純度の緑の水素を生産できるよう、電解槽の運転計画を組み立てる。電力価格が上昇した局面では、バッテリー蓄電システムが動的に電解槽の運転を補助し、蓄電した電力で生産を継続する仕組みも組み込む。

SWSのヤニック・エヴァースマン担当プロジェクトリーダーは、同事業により再生可能エネルギー資源をより効率的に活用し、規制要件を満たしながら市場の変動に対応できると説明。ZSWでスマートグリッド・系統統合を担当するヨナス・ペッチュマン氏は「緑の水素は優れた技術だけでなく、賢い運転によっても経済性を高められる」と述べ、電解槽・蓄電池・電力市場を最適に連携させることが狙いだと言った。

(ZSW/Stadtwerke Stuttgart 9月1日付)

<https://www.zfk.de/energie/wasserstoff/gruener-wasserstoff-mit-ki-stadtwerke-stuttgart-optimieren-prozess/>

独スプラティックス、AI 実験ロボット制御の新規格を提唱

独ドレスデンのスタートアップ企業スプラティックス(SupraTix GmbH)は、人工知能(AI)エージェントが実験室のロボットや計測機器を安全に認識・監視・調整できるようにする標準規格「モデル・ハードウェア・プロトコル(MHP)」を提唱した。AIモデルは実験計画の立案やデータ評価はできても、ロボットや機器を直接操作するには、確率的に振る舞うAIと、決定論的に動く物理機械との間を仲介する、制御された検証可能なインターフェースが必要になるとの問題意識に基づく。

MHPは、機器が持つ機能や状態、実行可能な命令、扱うデータや単位、動作前提条件、想定される異常、稼働限界、人による承認が必要な場面、AIが決して上書きできない安全機能などを、機種やメーカーを問わない共通の機械可読形式で記述する。研究者は個々のロボットの動きを逐一プログラムすることなく実験目標を提示でき、AIエージェントは工程を提案・調整できるが、実際の物理的動作はMHPが機器の状態や権限、安全規則と照合した上で初めて許可される仕組みだ。

同社は、AIによるロボット制御の基盤技術として過去に取得した特許を土台に、協働ロボット製品「ラボコボット(LabCoBot)」でMHPの実装を進めている。米アンソロピック(Anthropic)が2026年8月に発表した関連仕様「モデル・ハードウェア・スタンダード」の研究プレビューにも言及しつつ、大学や研究機関、機器メーカーとの実証実験パートナーを募っている。

(SupraTix GmbH/Silicon Saxony 9月1日付)

<https://silicon-saxony.de/model-hardware-protocol-wenn-ki-nicht-nur-antwortet-sondern-laborgeraete-sicher-koordiniert/>

独フレクソラ、極薄センサーで冷却工程を面的に可視化

独ドレスデンの新興企業フレクソラ(Flexora GmbH)は、菓子メーカーのゼッティ(Zetti、ゴルデック・ブュースヴァーレン傘下)と共同で、長さ10メートルの冷却トンネルにおける温度分布を面的に計測する実証を行った。厚さ0.5ミリメートルの薄型・柔軟な自己粘着式センサーフィルム「タリス(Thalis)」に20個の温度センサーを内蔵し、冷却トンネルに沿って設置することで、従来の単点計測では把握できなかった温度分布の連続的な「熱画像」を取得した。

計測の結果、冷却トンネルの始点と終点の間には常時2度前後の温度差が存在し、平均的な温度スプレッド(最高点と最低点の差)は2.9度、95%の時間帯でスプレッドは4.2度未満にとどまることが分かった。短期的な温度変動(制御のばらつき)は0.1~0.2度の範囲に収まり、位置によって制御品質に有意な差は見られなかったという。

同社によれば、この技術は食品分野に限らず、化学・プロセス・製薬・製紙業などでも温度分布や熱変化の把握に応用可能という。ゾーンごとの温度差が恒常的なものか、一時的な変動かを区別できる点が従来の単点センサーとの違いで、品質管理や工程の最適化、省エネルギー化、異常の早期検知につながるとしている。

(Flexora GmbH/Silicon Saxony 9月1日付)

<https://silicon-saxony.de/wenn-schokolade-auf-temperatursensoren-trifft-wie-zetti-mit-einer-flaechendeckenden-temperaturueberwachung-des-kuehlkanals-neue-einblicke-in-den-kuehlprozess-gewinnt/>

独 BTU と PAL、協働ロボットの現場実装をラウジッツで実証

ドイツ東部ラウジッツ地方の炭鉱地帯からの構造転換を支援する研究事業「パースペクティブ・アルバイト・ラウジッツ(PAL)」は、8月26日にブランデンブルク工科大学コトブス-ゼンフテンベルク(BTU)で成果発表イベント「未来の職場における知的アシスタンス」を開催した。ザクセン州・ブランデンブルク州の5大学の労働科学者らが、地元企業・団体約20社と5年間にわたり、データに基づくアシスタンスシステムを現場で開発・実証してきた成果を披露した。

同事業では、協働ロボット(コボット)と人が並んで作業する現場が既に複数の企業で日常化しているという。生産データを可視化するダッシュボード、熟練従業員の経験知を退職前にデジタルで蓄積する仕組み、身体的負荷を軽減するアシスタンス機器などが具体的な成果として紹介された。イベントには工作機械メーカーのHQMチューブスやフォエストアルピン・ワイヤー・ジャーマニーなどが出展し、抽象的な概念であった「アシスタンスシステム」や「コボット」を実際の作業道具として体験できる展示も行われた。

BTUの研究者らは今後、PALの成果とネットワークを助成期間終了後も維持するため、新たに設立したPAL協会を通じて中小企業への技術移転を継続する方針を示した。

(BTU Cottbus-Senftenberg/Silicon Saxony 8月25日付)

<https://silicon-saxony.de/btu-und-pal-wenn-roboter-zu-kollegen-werden-wie-die-lausitz-die-arbeit-von-morgen-erprobt/>

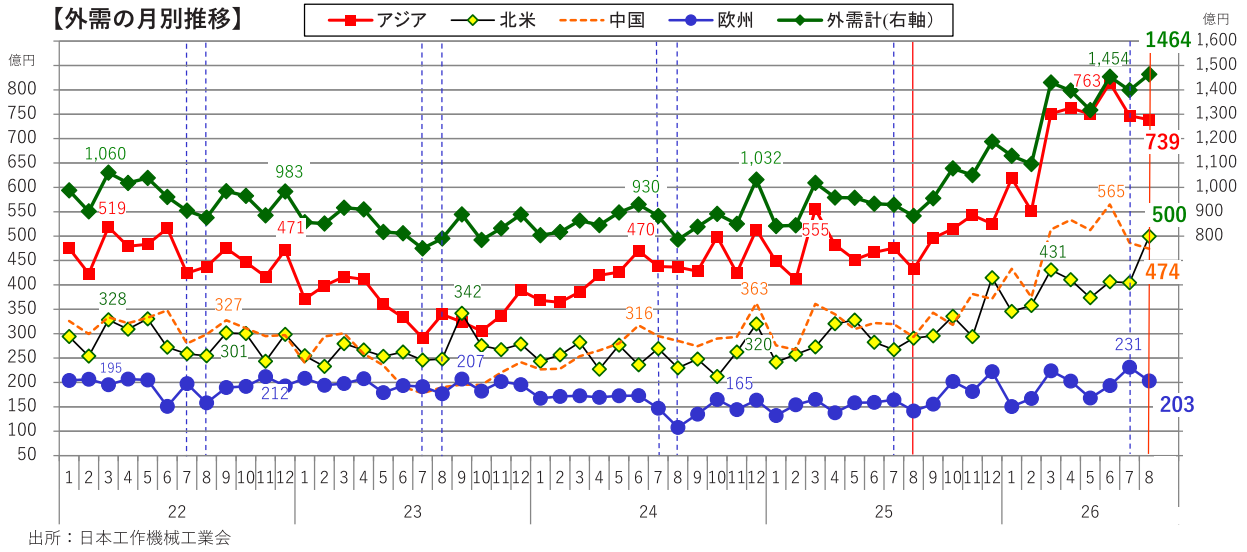
6. 日工会外需状況（8月）

外需【8月分】

1,463.5億円（前月比 + 4.6% 前年比 + 65.8%）

外需額

- ・前月比は2カ月ぶり増加、前年比では23カ月連続の増加、統計開始以降、最高額（2026年6月の1,453.6億円）を更新
- ・外需は、不透明な国際情勢の中、欧米の投資喚起政策の効果と、北米、アジアでの投資が持続し、高い水準が続く



外需【8月分】

主要3極別受注

①アジア

アジア計は、6カ月連続 700億円超え

- 東アジアは、10カ月連続400億円超え、550億円超えは6カ月連続
- 中国は、2カ月連続500億円割れも10カ月連続350億円超えと高い水準で推移
- その他アジアは16カ月連続の100億円超え
- インドは2カ月ぶりに90億円超え

②欧州

欧州計は、2カ月連続の200億円超え

- ドイツは、2カ月連続の45億円超え。2カ月連続で45億円を超えるのは2023年の後半以来のこと
- イタリアは、2カ月連続の30億円超え

③北米

北米計は、3カ月連続400億円超え、統計開始以降、最高額を更新

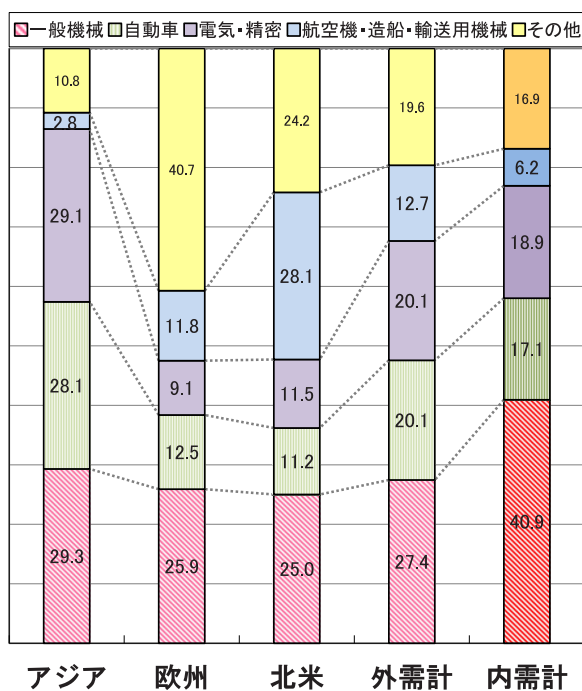
- アメリカは、3カ月連続の350億円を上回り統計開始後初めて400億円超え
- メキシコは、3カ月ぶりに30億円を超え

国・地域	受注額 (億円)	前月比 (%)	前年比 (%)
アジア	738.6	△1.1 2カ月連続減少	+71.0 12カ月連続増加
東アジア	552.7	△4.2 2カ月連続減少	+69.9 12カ月連続増加
韓国	45.5	△9.1 3カ月ぶり減少	+118.1 3カ月連続増加
中国	474.2	△2.5 2カ月連続減少	+61.7 29カ月連続増加
その他アジア	185.9	+9.3 2カ月ぶり増加	+74.2 7カ月連続増加
インド	97.1	+33.4 2カ月ぶり増加	+95.0 7カ月連続増加
欧州	203.1	△12.2 3カ月ぶり減少	+43.6 14カ月連続増加
ドイツ	49.1	+4.9 3カ月連続増加	+80.4 2カ月連続増加
イタリア	32.5	+1.3 2カ月連続増加	+87.4 3カ月連続増加
北米	499.5	+23.5 2カ月ぶり増加	+71.8 13カ月連続増加
アメリカ	446.0	+20.2 3カ月連続増加	+85.2 19カ月連続増加
メキシコ	33.6	+116.9 3カ月ぶり増加	+139.6 3カ月ぶり増加

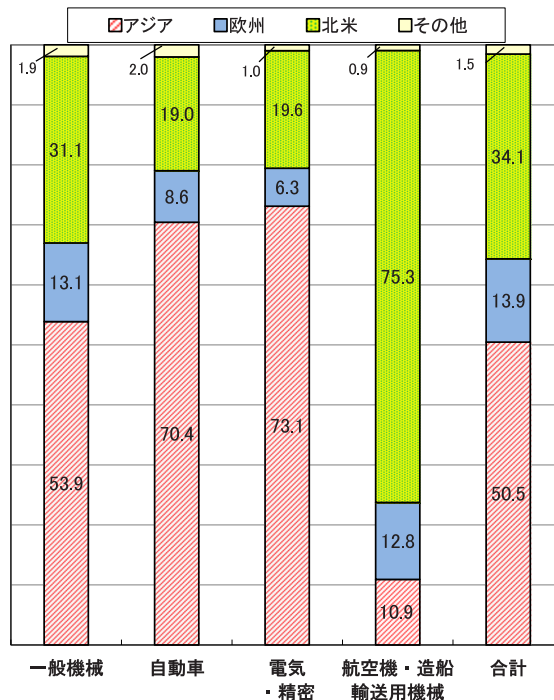
出所：日本工作機械工業会

外需【8月分】

主要3極別・業種別受注構成



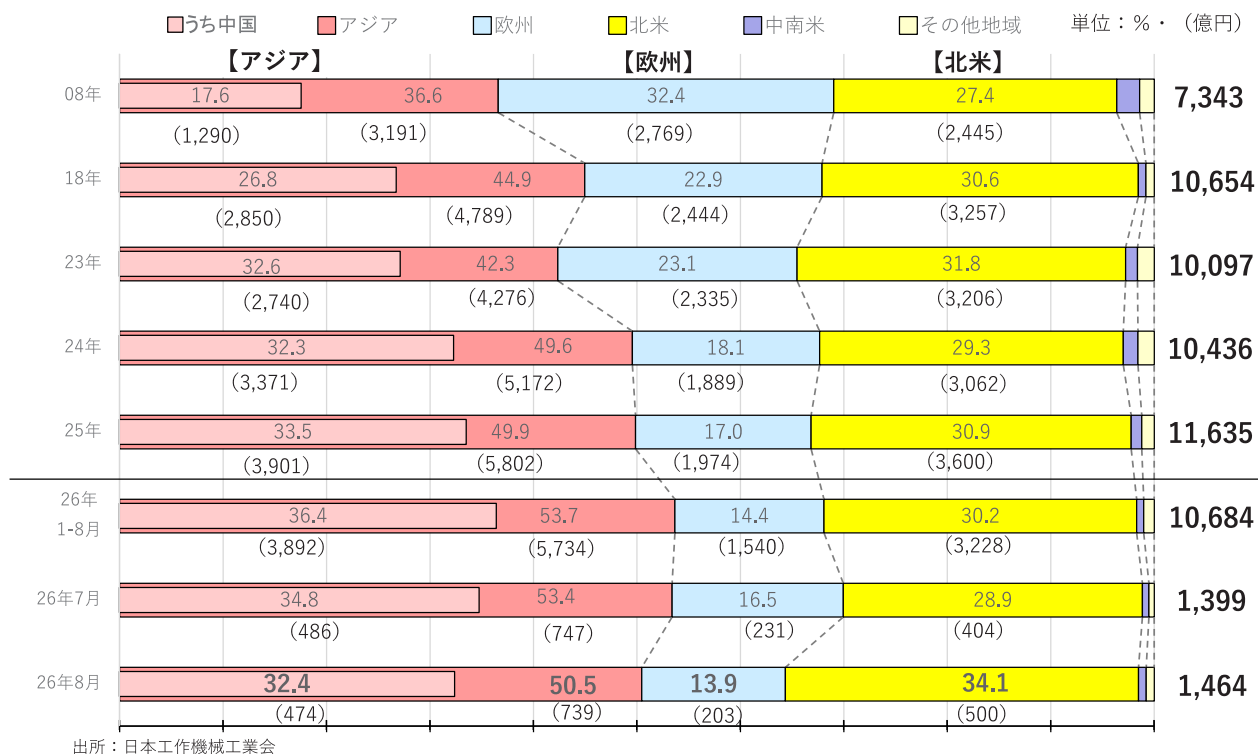
出所：日本工作機械工業会



出所：日本工作機械工業会

外需 地域別構成の推移

5か月ぶりに北米比率が3割を超えた



出所：日本工作機械工業会

JIMTOF2026 特別企画 | 2026.10.27 TUE 東京ビッグサイト

IMTEX 2027 プレスカンファレンス & インド進出セミナー

IMTMA Press Conference & India Business Seminar at JIMTOF 2026

開催概要

日 時	2026 年 10 月 27 日（火）14:30～17:00
会 場	東京ビッグサイト 会議棟 6 階 603 会議室 〒135-0063 東京都江東区有明 3-11-1
定 員	36 名（シアター形式）
言 語	英語・日本語（通訳付き予定）
参加費	無料
主 催	インド工作機械工業会（IMTMA） Indian Machine Tool Manufacturers' Association
協 力	一般社団法人 日本工作機械工業会（JMTBA）
運 営	NPO 法人 日印ビジネスビューロー（JIBB）／ 日印コンサルティング株式会社（JIC）



プログラム

14:30～15:30 (60 分)	第 1 部 IMTEX 2027 プレスカンファレンス IMTMA 来日！ ● IMTEX 2027 の魅力・参加のご案内 ● インド工作機械産業の最新動向とビジネス機会 来日予定：Mr. Vikram Salunkhe（IMTMA 副会長） Mr. Ravi Raghavan（IMTMA 元会長）	
15:30～15:45	休憩・名刺交換	
15:45～17:00 (75 分)	第 2 部 インド進出セミナー インド金型工業会 来日！ ● D&M India 2028 展示会のご案内と出展募集 ● IMTEX Forming 2028 のご案内と出展募集 ● インド金型産業の最新情報 ● インド進出に関するお話	

インド進出コンサルティング内容

売上に直結する「実務」の伴走支援 — 調査からパートナー探し、合併・合作、進出手続きまで

1. 市場調査・競合調査

- ・インド OEM の新機種・調達先情報
- ・競合の動向、市場価格の調査

2. 合併・合作パートナー探し

- ・合併（JV）・合作パートナーの発掘
- ・候補企業との協議・交渉サポート

3. インド進出サポート

- ・商品・サービスの精査、人材発掘
- ・会社設立 ・機械据付

お申込み・お問い合わせ

NPO 法人 日印ビジネスビューロー（JIBB）／日印コンサルティング株式会社（JIC）

代表 安井 重磨 TEL：090-9325-3456 / E-mail：yasui@ji-consulting.jp

担当 橋倉 麻依 TEL：080-6516-4331 / E-mail：trade@ji-consulting.jp

右の QR コードからお申し込みください。

※プログラム・来日者は都合により変更となる場合があります。



お申込み QR